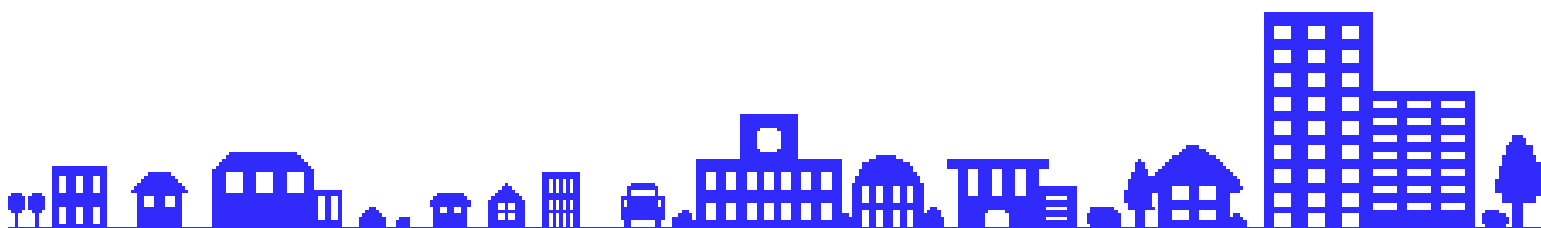




長崎市公共施設マネジメント 外海地区計画



長崎市 令和3年5月
(令和7年12月改訂)

【目次】

1 外海地区の特性	1
2 外海地区の将来推計人口	1
3 外海地区の公共施設配置図	3
4-1 黒崎・出津・神浦エリアの公共施設の情報	5
4-2 池島エリアの公共施設の情報	9
5 将来の方向性	11
（1）市民利用型施設	12
①レクリエーション施設（黒崎海岸有料シャワー施設、西出津ゲートボール場）	12
②商業振興施設（道の駅夕陽が丘そとめ、市設池島総合食料品小売センター）	16
③博物館等（外海歴史民俗資料館、遠藤周作文学館）	19
④文化財（ド・ロ神父記念館）	22
⑤市営宿泊施設（外海ふるさと交流センター、池島中央会館）	24
⑥コミュニティ活動施設（外海公民館、黒崎地区公民館、出津地区ふれあいセンター、老人福祉センター開陽山荘、池島開発総合センター、池島地区公民館、老人憩の家池島荘）	27
⑦学校（外海黒崎小学校、神浦小学校、外海中学校、池島小学校、池島中学校）	37
⑧放課後児童クラブ（にじっこクラブ）	40
⑨保健施設（池島診療所）	44
⑩健康増進・入浴施設（池島港浴場、池島東浴場）	46
（2）都市基盤・産業振興施設	49
①港湾施設（神浦港ターミナル、池島港船客待合所）	49
②市営住宅（永田第1住宅、永田第2住宅、永田第3住宅、高尾住宅、松本住宅、松山迫住宅、出津住宅、西出津住宅、丸尾住宅、神浦住宅、夏井住宅、池島第1住宅、池島第2住宅、池島第3住宅、池島第4住宅）	51
③農林業振興施設（外海ふれあい農産加工所）	56
（3）公用施設	58
①学校給食施設（神浦・黒崎学校給食共同調理場、池島学校給食共同調理場）	58
②庁舎等（外海地域センター、黒崎事務所、池島事務所）	60
③消防施設（北消防署神浦出張所、北消防署池島派出所）	64
④職員宿舎（池島教職員住宅第1号、外海地域センター池島事務所係長宿舎、池島診療所長宿舎（借上））	67
（4）公園施設	70
①公園施設（総合公園、地区公園、近隣公園、街区公園）	70
（5）その他の施設	73
①遊休資産（旧外海町庁舎、旧神浦中学校、旧黒崎中学校、旧まちづくり記念館、旧出津地区公民館）	73
6 地区計画のロードマップ（再掲）	77
参考 市民対話の実施	80

1 外海地区の特性

外海地区は市の北西部に位置し、東は琴海地区、南は三重地区、北は西海市に隣接し、西は角力灘に面しています。西側洋上には有人離島の池島のほか大小の島しょが点在しています。東側の山岳地から西向きの斜面地となっており、主要河川は黒崎川、出津川、神浦川の三つで、下流域にそれぞれの平野部があり、周辺に集落・農耕地・港があります。

平成 13 年、地区内の産業の中核として、地域発展の中心的役割を担ってきた池島炭鉱が閉山した後は、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の減少が続いています。併せて少子高齢化も進んでおり、この地区の平成 29 年 12 月末の 65 歳以上の人口割合は 50%と、市全体の 31%を大きく上回っています。

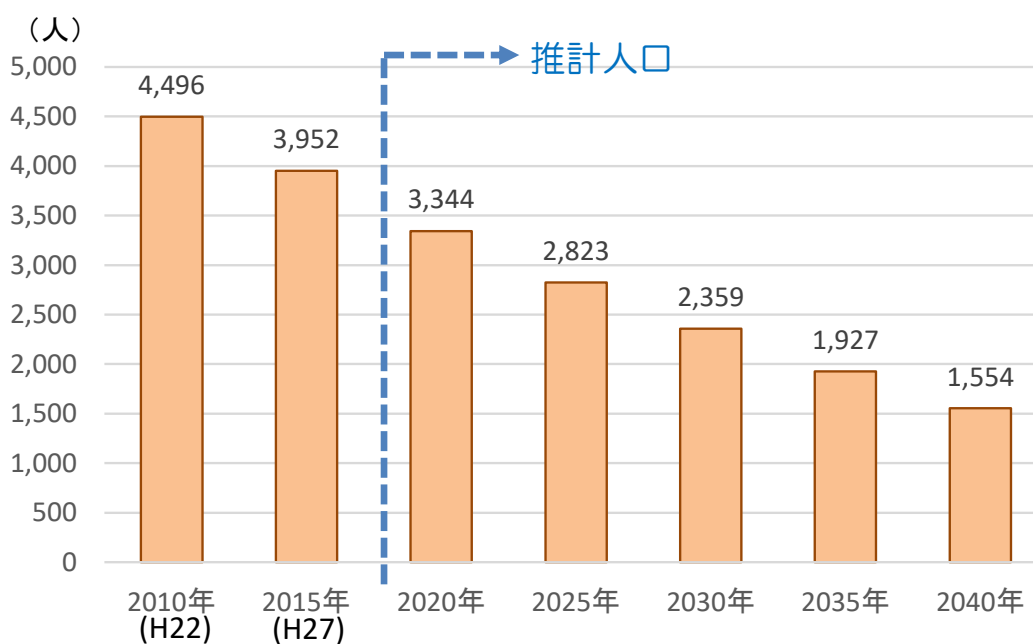
また、地区内の公共施設については、池島炭鉱閉山前の旧町時代に作られた施設が多く、老朽化が進んでいることから、近年、建替えや既存施設への移転などの取組みが行われています。

そのような中、平成 30 年 7 月には、出津集落と大野集落が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界文化遺産に登録されました。

恵まれた海、山、川の豊かな自然や独特の風土を活かしながら、炭鉱遺産を利用した体験型観光や、遠藤周作文学館などの文化施設、道の駅夕陽が丘そとめなどを活用し、交流人口の増加による地域振興を図っています。

2 外海地区の将来推計人口

平成 27 年(2015 年)に実施された国勢調査では、外海地区の人口は約 4,000 人でしたが、国の研究機関の将来推計を基にした地区別の推計では、2040 年には約 1,600 人に減少すると予測されています。



※2015 年までは国勢調査による実績値

※2020 年以降は、2010 年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出

また、今後の外海地区の年齢層別人口構成は、2040 年にかけて次のようになると予測されています。

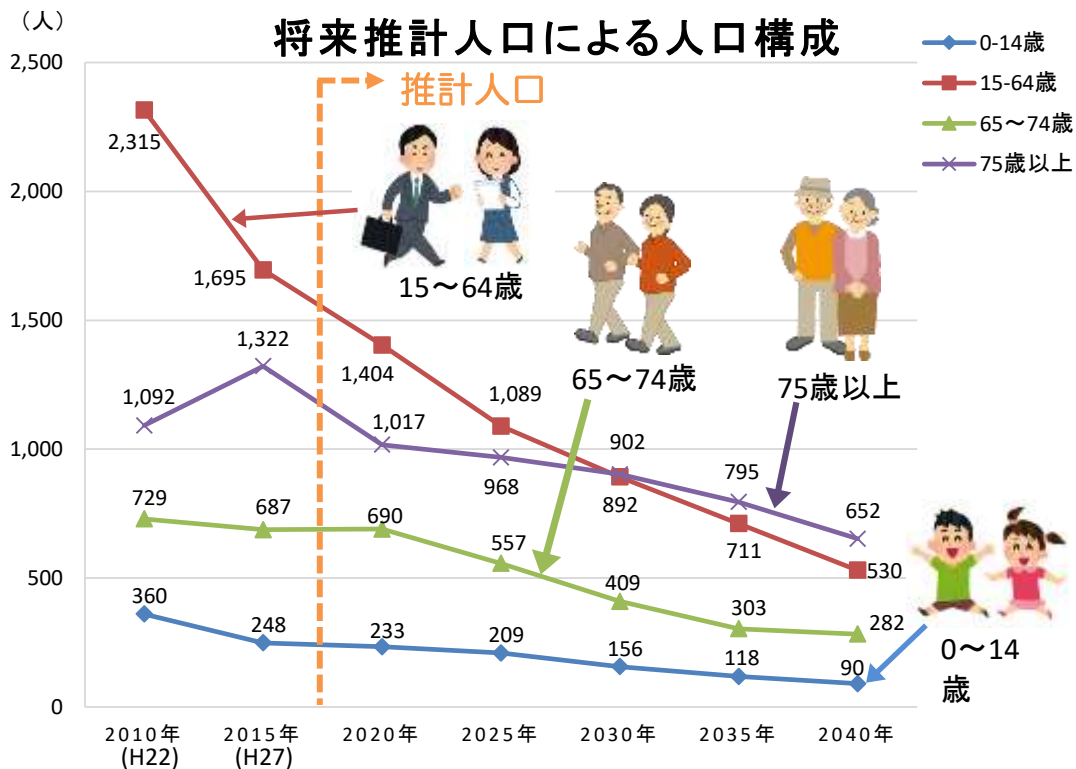
0 歳から 14 歳までの年少人口（青色）は、今後も減少傾向が続くと予測されています。

15 歳から 64 歳までの生産年齢人口（赤色）は、減少傾向が著しいと予測されています。

老年人口のうち 65 歳から 74 歳までの層（緑色）も、減少していくと予測されています。

老年人口のうち 75 歳以上の層は（紫色）は、2015 年をピークとして、以降は減少に転じると予測されています。

また 2025 年までは、地区の総人口のうち 15 歳から 64 歳の生産年齢人口が占める割合が最も多くなっていますが、2030 年には 75 歳以上の層の人口が占める割合が 15 歳から 64 歳の生産年齢人口とほぼ同じ程度となり、2040 年には地区の総人口のうち 65 歳以上（緑色と紫色の合計）が占める割合が全体の約 6 割になると予測されています。

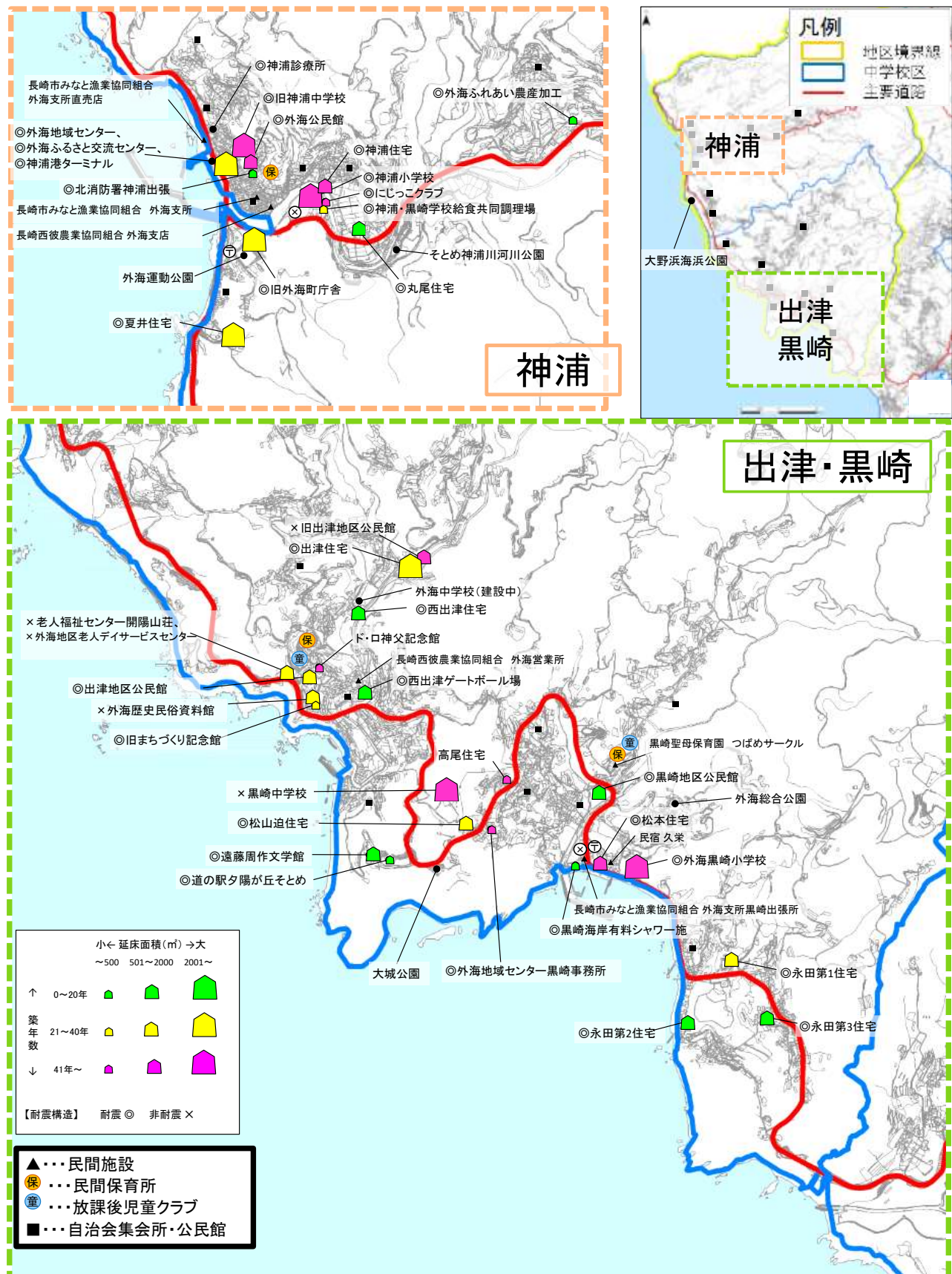


※2015 年までは国勢調査による実績値

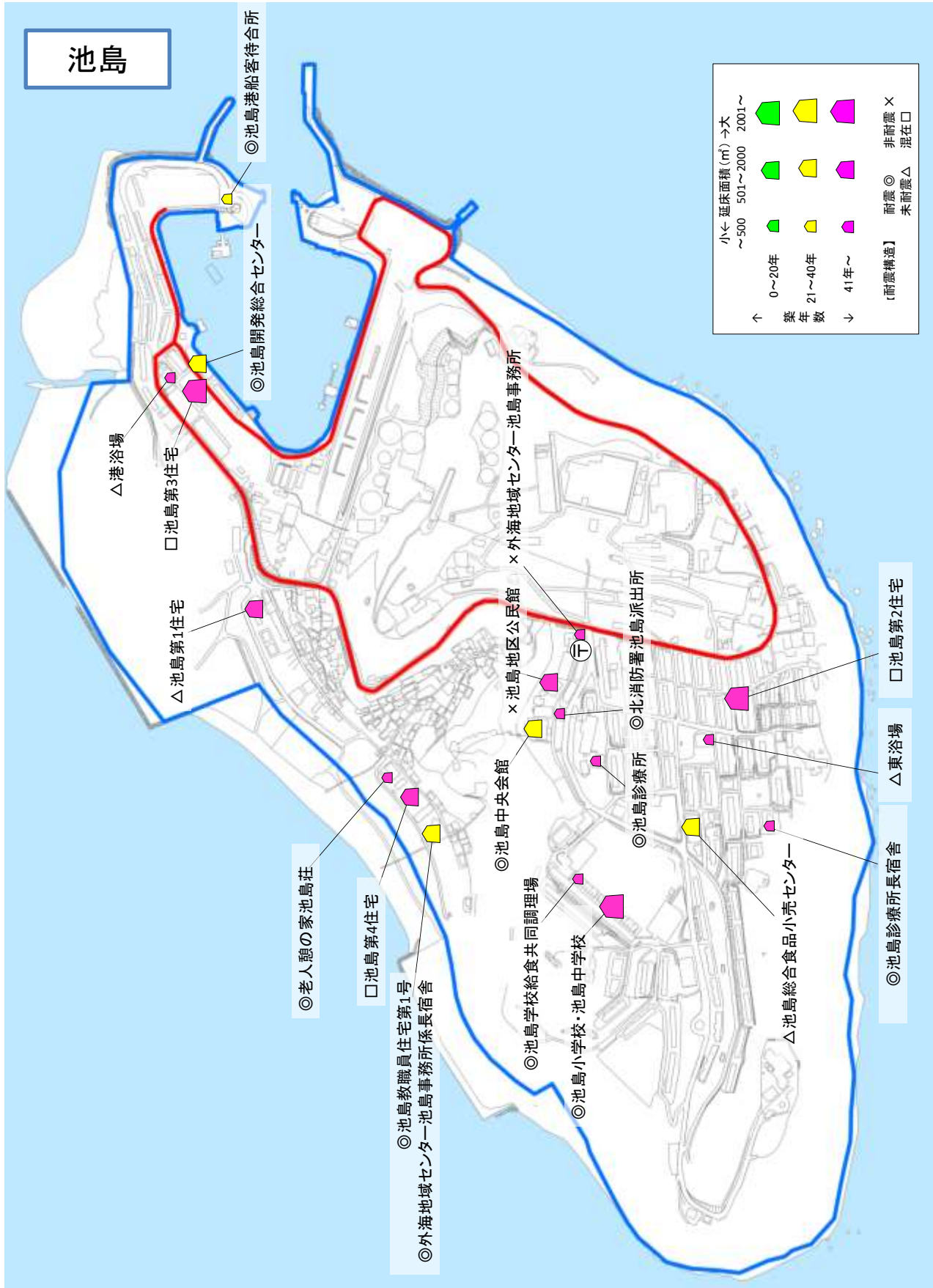
※2020 年以降は、2010 年の国勢調査を基礎とした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を基に算出

3 外海地区の公共施設配置図

平成 30 年 12 月 1 日現在



平成 30 年 12 月 1 日現在



4-1 黒崎・出津・神浦エリアの公共施設の情報

(1) 市民利用型施設

平成30年12月1日現在

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況			施設にかかる費用(※3)			
													日数	貸室の 稼働率	利用者数	H27	H28	H29	
市域 全体	レクリ エーション	黒崎海岸有料シャワー施設	観光レジャー	30㎡	2004.12	14	-	○	-	-	○	-	365	-	617	×	○	×	
		西出津ゲートボール場	観光レジャー	988㎡	1998.3	20	-	○	-	×	-	-	-	-	-	-	-	-	
	商業	道の駅夕陽が丘そとめ	産業	496㎡	2005.3	13	-	○	-	○	○	-	365	-	200,663	○	×	×	
		外海歴史民俗資料館	学習	1,097㎡	1979.4	39	-	×	○	○	○	×	358	-	13,595	○	○	○	
	博物館等	遠藤周作文学館	学習	1,074㎡	2000.3	18	-	○	-	○	○	×	358	-	24,335	×	×	×	
		観光	ド・ロ神父記念館	観光レジャー 文化	179㎡	1885.1	133	-	-	-	×	×	×	358	-	16,385	○	○	○
	宿泊	外海ふるさと交流センター	宿泊等		1,846㎡	1993.3	25	-	○	-	○	○	○	365	15.6%	13,836	○	○	○
地区	コミュニティ	黒崎地区公民館	交流 学習 本の貸出 貸	543㎡	2015.4	3	○	○	-	○	○	○	297	11.4%	5,045	×	×	×	
		出津地区公民館	交流 学習 本の貸出 貸	813㎡	1982.4	36	○	○	-	○	○	-	297	5.0%	2,814	×	×	×	
		外海公民館	交流 学習 本の貸出 貸	707㎡	1970.4	48	○	○	-	×	×	○	297	6.7%	7,209	○	×	×	
		老人福祉センター開陽山荘	高齢者 交流 入浴 貸	716㎡	1980.3	38	-	×	-	-	○	○	×	302	0.7%	1,369	×	×	×
	学校	外海黒崎小学校	教育	2,739㎡	1973.3	45	-	○	-	×	×	×	-	-	42	○	×	○	
		神浦小学校	教育	2,776㎡	1973.3	45	-	○	-	×	×	×	-	-	30	-(※4)	○	○	○
		外海中学校(H31.4開校予定)	教育	3,810㎡	2019.1	0	-	○	-	-	○	○	○	-	-	52	-	-	-
		放課後 児童クラブ	にじっこクラブ(神浦小)	子ども	79㎡	1970.4	48	-	○	-	×	×	-	291	-	204	×	×	×

貸室の稼働率を記載している施設の部屋別の稼働率は次のとおりです。

種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
宿泊	外海ふるさと交流センター	会議室1	8.4%	15.6%
		会議室2	1.8%	
		客室	36.6%	
コミュニ ティ	黒崎地区公民館	会議室	21.0%	11.4%
		講堂	21.7%	
		和室	1.2%	
		調理実習室	1.8%	
	出津地区公民館	会議室	12.8%	5.0%
		講堂	4.3%	
		和室	1.8%	
		調理実習室	1.0%	
コミュニ ティ	外海公民館	研修室	12.7%	6.7%
		会議室	5.3%	
		講堂	15.4%	
		視聴覚室	2.1%	
		和室	3.3%	
		調理実習室	2.5%	
	老人福祉センター開陽山荘	談話室	5.4%	0.7%
		大会議室	0.8%	
		第1会議室	0.9%	
		第2会議室	0.4%	

(2) 都市基盤・産業振興施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況			施設にかかる費用(※3)		
													日数	入居率	入居戸数 ※H30.4	H27	H28	H29
市域 全体	湾港	神浦港ターミナル	交通	53㎡	1993.3	25	-	○	-	○	○	○	-	-	11,778	-	-	-
		農林業振興	産業	219㎡	2003.3	15	-	○	-	×	×	-	-	-	9	○	○	○
	市営住宅	永田第1住宅	住まい	1,338㎡	1993	25	-	○	-	×	-	×	16	87.5%	14	○	×	×
		永田第2住宅	住まい	666㎡	2002	16	-	○	-	×	-	×	8	100.0%	8	○	○	×
		永田第3住宅	住まい	692㎡	2004	14	-	○	-	×	-	×	8	募集停止	7	×	○	×
		高尾住宅	住まい	226㎡	1976	42	-	-	-	×	-	×	4	100.0%	4	○	×	×
		松本住宅	住まい	1,034㎡	1977	41	-	○	-	×	-	×	16	募集停止	13	×	○	○
		松山迫住宅	住まい	1,120㎡	1980	38	-	○	-	×	-	×	16	募集停止	15	○	×	×
		出津住宅	住まい	2,044㎡	1989	29	-	○	-	×	-	×	28	85.7%	24	×	×	×
		西出津住宅	住まい	1,208㎡	2002	16	-	○	-	○	-	×	14	92.9%	13	×	×	○
		丸尾住宅	住まい	1,261㎡	2002	16	-	○	-	×	-	×	14	92.9%	13	×	×	×
		神浦住宅	住まい	1,092㎡	1977	41	-	○	-	×	-	×	16	募集停止	13	×	×	○
		夏井住宅	住まい	2,210㎡	1993	25	-	○	-	×	-	×	26	92.3%	24	×	×	×

(3) 公用施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況		施設にかかる費用(※3)		
													日数	利用者数	H27	H28	H29
地区	庁舎等	外海地域センター	手続き・相談	502㎡	1993.3	25	○	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○
		外海地域センター黒崎事務所	手続き・相談	313㎡	1968.4	50	○	○	○	○	×	×	-	-	○	○	○
	消防	北消防署神浦出張所	消防	408㎡	2014.2	4	-	○	-	×	×	×	-	-	○	○	○
	給食	神浦・黒崎学校給食共同調理場	その他	222㎡	1988.10	30	-	○	-	×	×	×	-	-	○	○	○

(4) 公園施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	敷地面積	開設 年月 (※1)	経過 年数	避難 場所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ
地区	公園 (※5)	そとめ神浦川河川公園(総合公園)	観光レジャー	83,720㎡	1996.7	22	-				×
		外海総合公園(地区公園)	観光レジャー	50,534㎡	1989.4	29	○				○
		大野浜海浜公園(近隣公園)	観光レジャー	12,333㎡	1992.3	26	-				×
		外海運動公園(近隣公園)	観光レジャー	5,973㎡	1983.3	35	○				×
		大城公園(近隣公園)	観光レジャー	17,926㎡	1966.3	52	-				×

(5) その他施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 場所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況		施設にかかる費用(※3)		
													日数	利用者数	H27	H28	H29
-	遊休資産	旧神浦中学校		2,515㎡	1967.2	51	-	○	○	×	×	×	-	-	-	-	-
		黒崎中学校(H31.4以降)		3,607㎡	1970.3	48	-	×	-	×	×	×	-	-	○	×	○
		旧まちづくり記念館		93㎡	1989.3	29	-	○	○	×	×	×	-	-	-	-	-
		旧外海町庁舎		2,518㎡	1982.8	36	-	○	○	○	×	×	-	-	-	-	-
		旧出津地区公民館		523㎡	1973.4	45	-	×	○	○	×	×	-	-	-	-	-

※1…主たる建物が複数ある場合は、最も古い建物の建築年月を記載しています。

※2…1階のみの建物は、「-」と記載しています。

※3…市全体で同じ用途の建物と比較したときに利用者1人当たりの費用が平均より低い場合は○、高い場合は×（利用者数を把握していない施設については、床面積1㎡当たりの費用で比較）と表記しています。

※4…学校の利用者数は、平成30年5月1日現在の児童・生徒数です。外海中学校の生徒数は、黒崎中学校の生徒数を記載しています。

※5…公園施設は、街区公園を除いた、総合公園、地区公園、近隣公園のみを記載しています。

- 総合公園…平和公園（平和発信の拠点）、長崎東公園や野母崎総合運動公園（スポーツの拠点）、稲佐山公園（都市景観の保全やレクリエーションの拠点）、金比羅公園、唐八景公園及び川原大池公園（自然とのふれあいの拠点）など、それぞれの公園において地形や特性を活かし、住民に総合的に利用されている公園です。
- 地区公園…住民のレクリエーション等の拠点となる公園です。
- 近隣公園…近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点となる公園です。
- 街区公園…街区内に居住する住民に利用されている公園です。

公共施設を見直すときのポイント（7つの視点）

(1) 市民利用型施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域 全体	レクリ エーション	黒崎海岸有料シャワー施設			✓				✓	2
		西出津ゲートボール場					✓			1
	商業	道の駅夕陽が丘そとめ							✓	1
	博物館等	外海歴史民俗資料館	✓	✓	✓	✓	✓			5
		遠藤周作文学館			✓		✓		✓	3
	観光	ド・ロ神父記念館	✓		✓		✓			3
地区	宿泊	外海ふるさと交流センター			✓					1
		黒崎地区公民館			✓			✓	✓	3
		出津地区公民館	✓		✓		✓	✓	✓	5
		外海公民館	✓		✓		✓	✓	✓	5
	コミュニティ	老人福祉センター開陽山荘	✓	✓	✓		✓	✓	✓	6
		外海黒崎小学校	学校施設は、児童生徒によりよい教育環境を提供する視点で、 教育委員会が検討を進めております。							
		神浦小学校								
		外海中学校（H31.4開校予定）								
	学校									
	放課後児童クラブ	にじっこクラブ（神浦小）	✓				✓		✓	3

(2) 都市基盤・産業振興施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域 全体	港湾	神浦港ターミナル								0
	農業振興	外海ふれあい農産加工所					✓			1
	市営住宅	永田第1住宅					✓	✓	✓	3
		永田第2住宅					✓	✓		2
		永田第3住宅					✓	✓		2
		高尾住宅	✓				✓	✓		3
		松本住宅	✓		✓		✓	✓	✓	5
		松山迫住宅	✓				✓	✓	✓	4
		出津住宅					✓	✓	✓	3
		西出津住宅					✓	✓	✓	3
		丸尾住宅					✓	✓	✓	3
		神浦住宅	✓		✓		✓	✓	✓	5
		夏井住宅					✓	✓	✓	3

(3) 公用施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
地区	庁舎等	外海地域センター						✓		1
		外海地域センター黒崎事務所	✓			✓	✓	✓		4
	消防	北消防署神浦出張所								0
	給食	神浦・黒崎学校給食共同調理場	✓				✓			2

(4) 公園施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
地区	公園	そとめ神浦川河川公園（総合公園）					✓			1
		外海総合公園（地区公園）								0
		大野浜海浜公園（近隣公園）					✓			1
		外海運動公園（近隣公園）					✓			1
		大城公園（近隣公園）					✓			1

(5) その他施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
－	遊休資産	旧神浦中学校	✓			✓	✓			3
		黒崎中学校（H31.4以降）	✓							1
		旧まちづくり記念館			✓	✓	✓			3
		旧外海町庁舎	✓			✓	✓			3
		旧出津地区公民館	✓	✓		✓	✓			4

【7つの視点のチェックについて】

- 1…建てられてからの年数が30年以上のものに✓
- 2…耐震性がない建物に✓
- 3…市全体で同じ種類の建物と比較したときに平均より貸室の稼働率または入居率が低い場合に✓
貸室の稼働率または入居率がない施設は、1日当たりの利用者数が平均より低い場合に✓
- 4…使われていない部屋などがある場合に✓
- 5…入口にスロープ、2階以上の建物にエレベーター、多目的トイレのいずれか1つでもなければ✓
- 6…地区内に同じような使い方をしている施設がある場合に✓
- 7…施設にかかる費用が3か年のうち2か年以上×の場合に✓

※地区計画に記載している公共施設配置図、公共施設の情報及び利用者数などのグラフは、地区関係者の皆さまへ計画（案）のご意見等をお伺いした時点（令和2年9月～10月）のものです。

4-2 池島エリアの公共施設の情報

(1) 市民利用型施設

平成 30 年 12 月 1 日現在

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	建床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況			施設にかかる費用(※3)		
													日数	貸室の 稼働率	利用者数	H27	H28	H29
市域全体	宿泊	池島中央会館	宿泊等	1,289㎡	1979.4	39	○	○	○	○	×	×	359	0.8%	961	×	×	×
地区	コミュニティ	池島開発総合センター	交流、貸	736㎡	1987.7	31	-	○	-	○	○	○	288	4.7%	4,687	○	×	×
		池島地区公民館	交流、学習、本の貸出、貸	600㎡	1967.4	51	-	-	○	×	×	×	295	0.3%	683	×	×	×
		老人憩の家池島荘	福祉、交流、入浴、貸	279㎡	1974.3	44	○	○	-	×	×	×	293	2.2%	2,739	×	×	×
		池島小学校・池島中学校	教育	5,593㎡	1959.4	59	-	○	-	×	×	×	-	-	2(※4)	○	○	○
地区 (特定地域)	入浴	池島診療所	医療	155㎡	1971.5	47	-	○	-	×	×	-	244	-	1,272	×	×	×
		池島港浴場	入浴	213㎡	1964.3	54	-	-	-	×	×	-	310	-	8,584	○	○	○
		池島東浴場	入浴	396㎡	1970.9	48	-	-	-	×	×	-	308	-	4,426	×	×	×
		市設池島総合食料品小売センター	その他	996㎡	1979.11	39	-	-	○	×	×	×	-	-	-	○	○	○

貸室の稼働率を記載している施設の部屋別の稼働率は次のとおりです。

種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
宿泊	池島中央会館	会議室1	0.0%	0.8%
		会議室2	0.0%	
		会議室3	0.0%	
		会議室4	0.0%	
		控室1	0.0%	
		控室2	0.0%	
		控室3	0.0%	
		研修室	2.8%	
		調理室	4.5%	

種類	施設の名称	区分	稼働率	平均 稼働率
コミュニ ティ	池島開発総合センター	会議室1	0.8%	4.7%
		会議室2	25.4%	
		会議室3	1.1%	
		研修室	0.6%	
		和室	0.0%	
		調理実習室	0.1%	
	池島地区公民館	会議室	0.0%	0.3%
		講堂	0.6%	
		和室	0.9%	
		調理実習室	0.0%	
		卓球室兼研修室	0.2%	
	老人憩の家池島荘	集会室	0.4%	2.2%
		和室(倶楽室1)	6.1%	
		和室(倶楽室2)	0.0%	

(2) 都市基盤施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況			施設にかかる費用(※3)		
													日数	入居率	入居戸数 ※H30.4	H27	H28	H29
市域全体	港湾	池島港船客待合所	交通	82㎡	1995.4	23	-	○	-	○	×	×	365		34,138	○	○	○
	市営住宅	池島第1住宅	住まい	1,025㎡	1970	48	-	○		×		×	24	募集 停止	4	○	○	○
		池島第2住宅	住まい	2,981㎡	1962	56	-	△		×		×	68	募集 停止	14	○	×	○
		池島第3住宅	住まい	7,931㎡	1965	53	-	△		×		×	203	募集 停止	61	○	○	○
		池島第4住宅	住まい	1,394㎡	1976	42	-	△		×		×	22	募集 停止	6	○	×	○

※△:耐震と非耐震の建物が混在する。

(3) 公用施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	施設の機能	床面積	建築 年月 (※1)	経過 年数	避難 所	耐震 性	使ってい ない部屋	スロ ープ	多目的 トイレ	エレベ ーター (※2)	H29年度利用状況		施設にかかる費用(※3)		
													日数	利用者数	H27	H28	H29
地区	庁舎等	外海地域センター池島事務所	手続き・相談	103㎡	1961.10	57	-	×	-	×	×	-	-	-	×	×	×
	消防	北消防署池島派出所	消防	96㎡	1974.3	44	-	○	-	×	×	-	-	-	○	×	×
	給食	池島学校給食共同調理場	その他	292㎡	1962	56	-	○	-	×	×	-	-	-	×	-	-
地区 (特定地区)	職員宿舎	池島教職員住宅第1号	その他	740㎡	1987.3	31	-	○	-	×	×	×	-	-	○	○	○
		外海地域センター池島事務所係長宿舎	その他	61㎡	1987.4	31	-	○	-	×	×	×	-	-	○	○	○
		池島診療所長宿舎	その他	73㎡	1962.3	56	-	○	-	×	×	×	-	-	○	○	○

※1…主たる建物が複数ある場合は、最も古い建物の建築年月を記載しています。

※2…1階のみの建物は、「-」と記載しています。

※3…市全体で同じ用途の建物と比較したときに利用者1人当たりの費用が平均より低い場合は○、高い場合は×（利用者数を把握していない施設については、床面積1㎡当たりの費用で比較）と表記しています。

※4…学校の利用者数は、平成30年5月1日現在の児童・生徒数です。

公共施設を見直すときのポイント（7つの視点）

（1）市民利用型施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に 弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域全体	宿泊	池島中央会館	✓		✓	✓	✓		✓	5
地区	コミュニティ	池島開発総合センター	✓		✓			✓	✓	4
		池島地区公民館	✓		✓	✓	✓	✓	✓	6
		老人憩の家池島荘	✓		✓		✓	✓	✓	5
		池島小学校・池島中学校	学校施設は、児童生徒によりよい教育環境を提供する視点で、教育委員会が検討を進めております。							
地区 (特定地域)	保健	池島診療所	✓		✓		✓		✓	4
	入浴	池島港浴場	✓		✓		✓	✓		4
		池島東浴場	✓		✓		✓	✓	✓	5
	商業	市設池島総合食料品小売センター	✓			✓	✓			3

（2）都市基盤施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に 弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
市域全体	港湾	池島港船客待合所			✓		✓			2
	市営住宅	池島第1住宅	✓		✓		✓	✓		4
		池島第2住宅	✓	✓	✓		✓	✓		5
		池島第3住宅	✓	✓	✓		✓	✓		5
		池島第4住宅	✓	✓	✓		✓	✓		5

（3）公用施設

サービス 圏域	種類	施設の名称	建築後 30年以上	地震に 弱い	あまり利用 されていない	未使用の 部屋がある	バリアフリー ではない	地区内に 類似施設がある	費用が多く かかっている	合計
地区	庁舎等	外海地域センター池島事務所	✓	✓			✓		✓	4
	消防	北消防署池島派出所	✓						✓	2
	給食	池島学校給食共同調理場	✓		✓		✓			3
地区 (特定地域)	職員宿舎	池島教職員住宅第1号	✓				✓			2
		外海地域センター池島事務所係長宿舎	✓		✓	✓	✓			4
		池島診療所長宿舎	✓				✓			2

【7つの視点のチェックについて】

- 1…建てられてからの年数が30年以上のものに✓
- 2…耐震性がない建物に✓
- 3…市全体で同じ種類の建物と比較したときに平均より貸室の稼働率または入居率が低い場合に✓
貸室の稼働率または入居率がない施設は、1日当たりの利用者数が平均より低い場合に✓
- 4…使われていない部屋などがある場合に✓
- 5…入口にスロープ、2階以上の建物にエレベーター、多目的トイレのいずれか1つでもなければ✓
- 6…地区内に同じような使い方をしている施設がある場合に✓
- 7…施設にかかる費用が3か年のうち2か年以上×の場合に✓

※地区計画に記載している公共施設配置図、公共施設の情報及び利用者数などのグラフは、地区関係者の皆さまへ計画（案）のご意見等をお伺いした時点（令和2年9月～10月）のものです。

5 将来の方向性

≪「5 将来の方向性」の見方≫

〇〇施設の 施設配置の 基本的な考え方	※将来の長崎の姿（2040 年）を踏まえた行政サービスの方向性と、施設配置についての、市の基本的な考え方を記載しています。
---------------------------	---

ア 現状及び課題

(個別施設名)	
写真及び イメージ画像	【建築年】 【開館時間】 【休館日】 【年間利用者数】 【1 日当たりの利用者数】 【概要】 <ul style="list-style-type: none"> 施設の経緯や、現状、使われ方などを記載しています。
【現状及び課題】 <ul style="list-style-type: none"> ハード、ソフト面における現状・課題を記載しています。 市民対話で出された主な意見などを記載しています。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

※施設配置についての基本的な考え方と、市民対話で頂いた意見・アイデア等を踏まえて検討した、当該施設の今後のあり方や方向性を記載しています。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
(A 施設)				施設のあり方を検討する
(B 施設)				適正管理を行う

今後見直しの検討が必要と判断した施設については、その実施期間を矢印で示しています。

当面、現施設を維持すると判断した施設については、矢印の記載を省略しています。

「施設のあり方や見直しの方向性」はロードマップにも簡潔に記載しています。

(1) 市民利用型施設

①レクリエーション施設（黒崎海岸有料シャワー施設、西出津ゲートボール場）

レクリエーション 施設の施設配置の 基本的な考え方

レクリエーション（余暇活動）は、日常生活における心身の疲れを癒し、活力を養うことができる重要なものであり、今後もその重要性は変化することがないため、余暇活動を行える場を提供し、市民の豊かな生活を支援します。

余暇活動は、多種多様であり、レクリエーション施設は、その活動にあわせ、官民間問わず設置されているところです。

民間のレクリエーション施設は、時代の流行に合わせて、利潤を生むものが設置されており、市として設置するレクリエーション施設は、市民の豊かな生活を支援するため、世代を問わず誰もが利用できる場を長期的に継続して提供する必要があります。

ただし、体育施設や公園等もレクリエーションを行う場となるため、専用施設として設置するものは、長崎市の豊かな自然環境を活用することで、市内外から多くの方を地域に呼び込むことができ、市全体や地域の活性化に資することができることを条件とします。

また、同様な機能を持つ施設との役割分担や機能の集約化、市民の満足度の把握による施設の充実を進めるとともに、民間での運営の可能性や維持管理費の軽減についても検討を行います。

海洋型施設については、長崎市の貴重な資源である美しい海を活かして、家族等で安心して海水浴等ができ、市内外から多くの方を地域に呼び込み、市全体や地域の活性化に資することができる施設は存続することとしますが、それ以外の施設は用途廃止とします。

広場施設については、現状の利用状況から将来の利用の増加が一定見込める施設や、スポーツや地元のイベント等で地域の住民の方々に利用されており、今後も同様の利用の継続が見込まれる施設は、存続させることとしますが、それ以外は用途廃止とします。

ア 現状及び課題

黒崎海岸有料シャワー施設



【建築年】2004 年

【利用時間】24 時間

【休業日】なし

【年間利用者数】617 人

【1 日当たりの利用者数】2 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 主にサーフィンなどで黒崎海岸を利用する方々の利便性を図るために設置されています。
- シャワー室の他にトイレが併設されています。

【現状及び課題】

- バス停が近くにあり、トイレはバス利用者も利用しています。
- 市民対話では、
「大規模改修時に廃止という市の考え方は、やむを得ない。」
「利用者がきれいに使わない。廃止してはどうか。」
「シャワーは廃止してもよいが、トイレは継続してほしい。」
「環境上の問題から、住民、サーファー団体、漁協の三者が協議して設置した経緯があるので、廃止の際は、住民やサーファー団体と協議を行う必要がある。」
という意見が出されました。

西出津ゲートボール場（2020 年 3 月_用途廃止済）



【建築年】1998 年

【開場時間】10:00～16:00

【休場日】なし

【概要】

- 老人福祉センター開陽山荘に隣接し、高齢者の健康増進、生きがいづくりのために設置されています。
- 屋根付きで、雨天時でも利用が可能です。

【現状及び課題】

- ゲートボール場の利用は週に 2 回程度で、ナイター設備はほとんど利用されていない状態です。
- レクリエーション活動は多様化しており、多目的に利用できるよう検討する必要があります。
- 市民対話では、
「ゲートボールだけではもったいない。水銀灯もついているのでもっと他に使う方法を考えてもらえたら。」
「多目的利用・活用をするなら維持管理（建物の塗装）をしっかりする必要がある。」
「フットサルやグランドゴルフ、イベント会場として利用する。」

「名称を変えて使いやすくする。」

「中学校ができるので、子ども達のために活用する。」

「ゲートボールは路面を平たく保つ必要があるため、他のスポーツとの併用は不可能だと思う。」

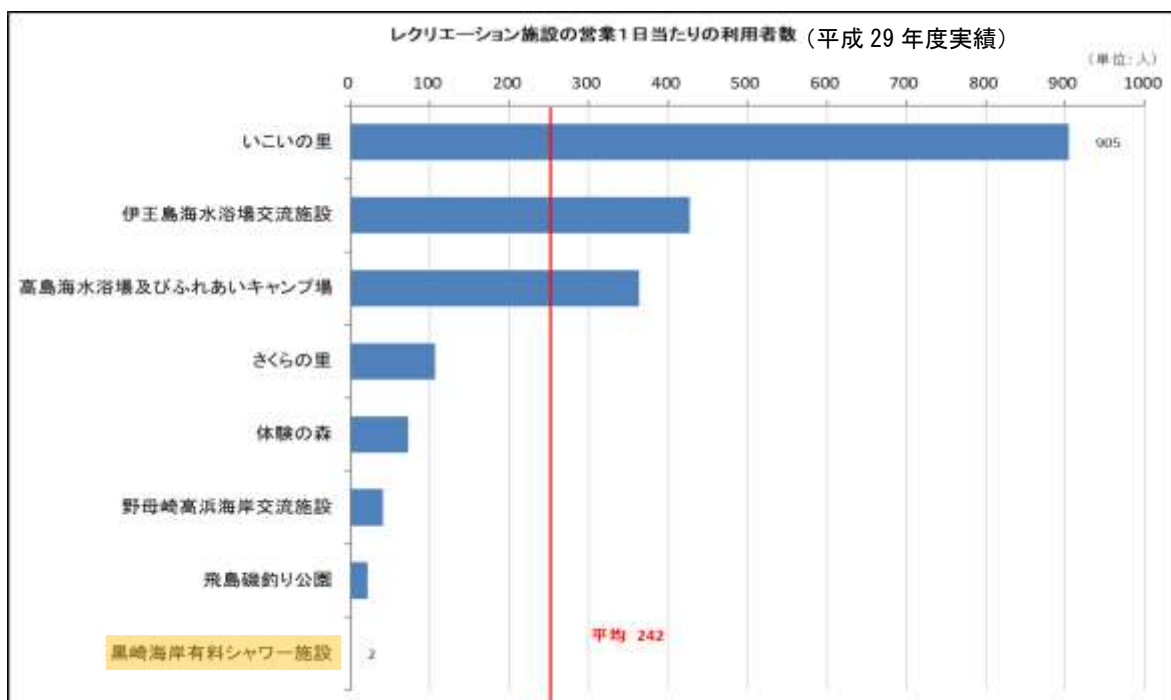
という意見が出されました。

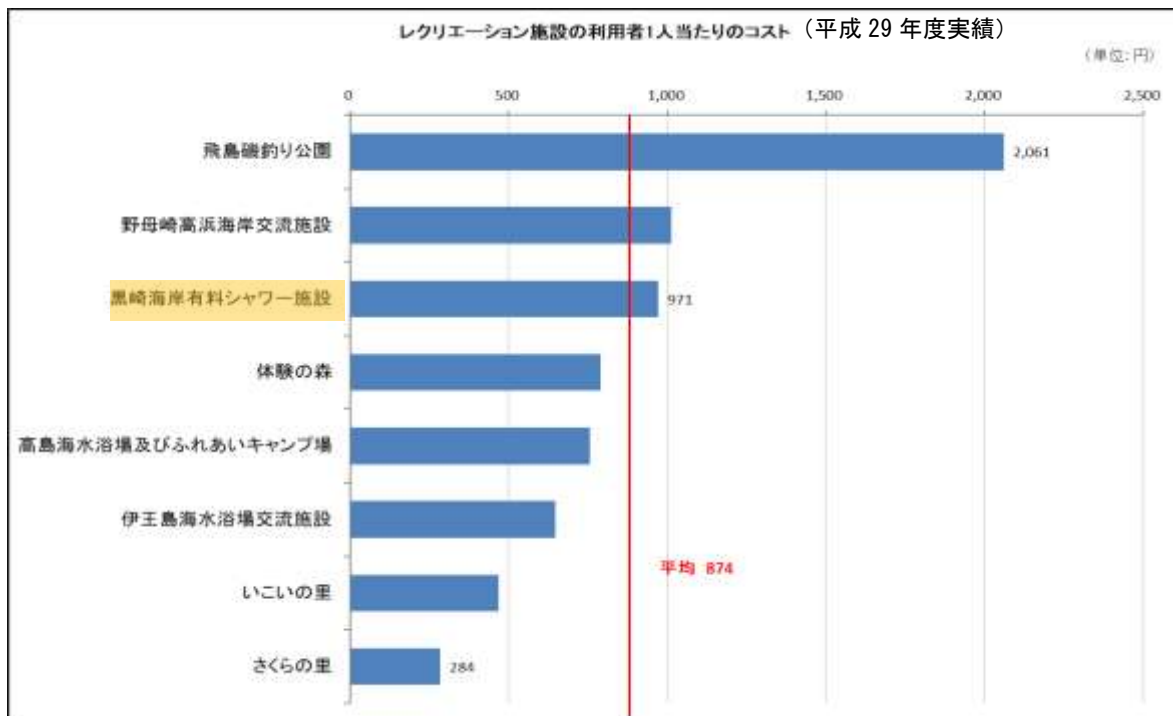
イ 施設のあり方や見直しの方向性

- サーフスポットである黒崎海岸は、特に初夏から秋を中心にサーファーに利用されていますが、他のサーフスポットでは、サーファー自身で、簡易シャワーやポリタンクなどを準備していることから、黒崎海岸有料シャワー施設については、今後、施設の改修などに多額の費用を投資する必要が生じた段階で廃止します。公衆トイレ機能については、その時点の利用状況を踏まえ地域の皆さんと協議します。
- 高齢者のレクリエーションは多岐にわたり、ゲートボール競技人口は年々減少していることから、西出津ゲートボール場について、今後は、ゲートボール専用施設としては廃止し、名称の変更や、多目的に利用できるような活用のあり方について検討を行います。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
黒崎海岸有料シャワー施設	→			大規模改修時に廃止する 公衆トイレ機能については、 その時点の利用状況を 踏まえ、地域と協議する
西出津ゲートボール場	→			ゲートボール専用施設として は廃止し、多目的に利用 できるよう検討する





②商業振興施設（道の駅夕陽が丘そとめ、市設池島総合食料品小売センター）

商業振興施設の 施設配置の 基本的な考え方

2040 年に向けて、農山漁村では人口減少、高齢化が都市部よりも進行し、農水産業従事者も減少することが予想されます。

農水産物直売所は、小規模生産者等の所得向上などを通し、地域の農水産業振興に寄与するものであり、安定的な収入確保という面で、農水産業従事者の減少対策としての効果が高く、地産地消の拠点として必要です。

行政としては、農水産物の付加価値向上や加工品の生産、イベントや生産者に関する情報発信などを支援することで、農水産業の活性化や地産地消を推進します。


運営については、長崎市内の 20 か所の農水産物直売所のうち、公設の 3 か所を除く 17 か所は民設民営によりさまざまな規模や事業主体で実施されていることから、行政サービスとして実施する必要性が低いため、民間移譲を基本とし、地域の農水産業の振興・活性化に寄与でき、継続的な運営ができる団体に移譲します。

販売額が少なく、機能を代替できる民間施設が周辺にある場合など、その意義が薄れている農水産物直売所は廃止します。ただし、地域によっては、農水産業の振興のみならず、観光振興や地域振興などの観点から、情報発信機能の必要性があることも考慮し、道の駅（公設）としての設置などを含め、そのあり方について検討を行います。

市設小売市場は、民間の流通機能の発達により、公設小売市場の必要性は低くなっているため、食料品等の生活必需品の安定供給機能の確保を前提に、市設置の小売市場は廃止します。

ア 現状及び課題

道の駅夕陽が丘そとめ

	<p>【建築年】2005 年</p> <p>【営業時間】</p> <p>＜直売所＞（4～9月）9:00～19:00（10～3月）9:00～18:00</p> <p>＜レストラン・テイクアウト館＞（4～9月）11:00～20:30 （10～3月）11:00～19:30</p> <p>【休業日】</p> <p>＜直売所＞1月1日～3日</p> <p>＜レストラン・テイクアウト館＞無休</p> <p>【年間利用者数】200,663人 ※利用者数は平成29年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長崎市の北部に位置する市内で唯一の道の駅です。 ● 地元産品にふれあう場及び地域の情報を提供し、地域の振興及び道路利用者の利便性向上のため設置しています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物販販売所では、新鮮で安心・安全な地元産の食材等を販売しています。 ● 観光客ばかりでなく、地域住民にもよく利用されています。 	

市設池島総合食料品小売センター（2023年3月_用途廃止済）

	<p>【建築年】1979 年</p> <p>【休場日】なし</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 島内唯一の小売機能を有する施設です。 ● 民間事業者が食料品等を販売しています。施設の一部を貸し出して、民間による島内唯一の食堂が営業されており、観光客や池島中央会館宿泊客なども利用しています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入居者は1店舗のみで、使用されていないスペースが多く、施設も老朽化しています。 ● 島民の多くは、食料品等を島外店舗や、市外業者が運営する移動販売車から購入している状況です。（平成29年11月実施アンケート調査） ● 市民対話では、 <ul style="list-style-type: none"> 「別の場所で売ってもらえるのであれば（移転しても）良い。」 「唯一の食事処がなくなると観光客が減るのでは。」 「中央会館に小売りや飲食の機能を集約すると、楽しくなる場所になる。」 「建物の廃止は理解するが、サービスの継続は必要、他に入れる場所を検討してほしい。」 <p>という意見が出されました。</p>	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

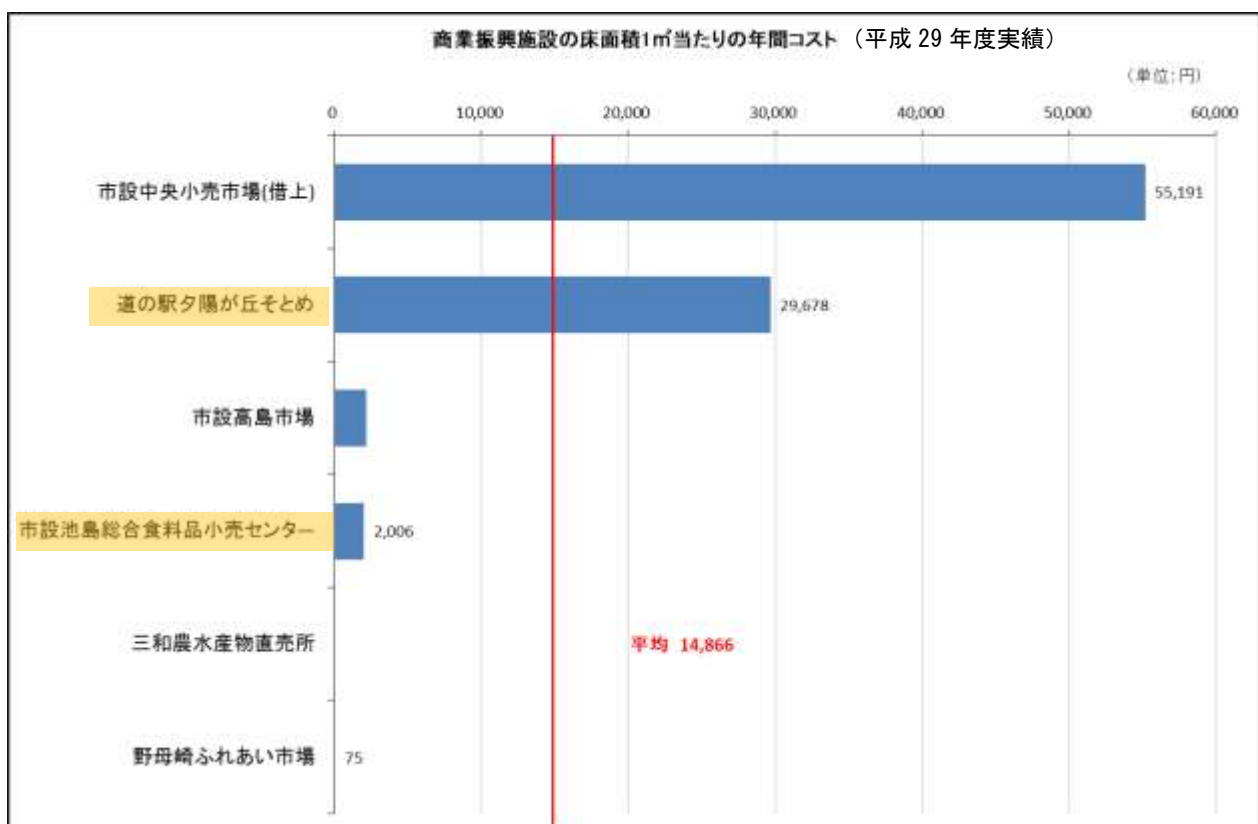
道の駅夕陽が丘そとめについては、道の駅の必須の機能である、道路利用者のための「休憩機能」、道路情報や地域情報の「発信機能」、地域の交流を促進するための「地域連携機能」のうちの地域連携機能の一環として直売所が設けられています。

道の駅は、登録要件上、市町村等が設置主体である必要があり、今後、世界遺産登録による観光客の増加が見込まれる外海地区における、道の駅のブランド力を活かした情報発信・地域交流の拠点として、現在の施設を適正に管理し継続します。

市設池島総合食料品小売センターは、施設が老朽化していますので、島内の他の公共施設の集約化の動向に合わせた機能移転や、地域の実情に応じた流通事業者等と連携した商業機能維持支援策により機能の代替を図り、施設は廃止します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
道の駅夕陽が丘そとめ				適正管理を行う
市設池島総合食料品小売センター	→			機能移転や代替措置を講じたうえで廃止し解体する



③博物館等（外海歴史民俗資料館、遠藤周作文学館）

博物館等の
施設配置の
基本的な考え方

博物館等は、関連する資料を収集、保管、展示し、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うことで、教育の振興や、学術及び文化の発展に寄与することなどを目的に設置しています。

また、地域の特徴的な歴史文化遺産を明らかにし、顕在化することで、自分の街への誇りや愛着の涵養や、ひいては地域活性化にもつなげます。

今後とも、貴重な資料を保存し、研究していくとともに地域独自の文化、歴史を適切な場所から発信していく必要があり、更に観光資源としても活用し、交流人口の拡大につなげます。

一方、展示物の老朽化等により設置当初の機能を果たせていないものや、展示物の移転・集約が可能な施設もあるため、全体として見直しを図ります。

ア 現状及び課題

外海歴史民俗資料館



【建築年】1979 年

【開館時間】9：00～17：00

【休館日】年末年始

【年間利用者数】13,595 人

【1 日当たりの利用者数】38 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 外海地区の歴史文化等、先人が残した貴重な資料の収集、保存、調査研究を行っています。
- 民俗資料の他、池島炭鉱に関する展示やキリスト教関連の資料の展示が行われています。
- 世界遺産センターのサテライト施設として位置づけられており、2016 年度に世界遺産の価値を説明するための展示を追加しています。

【現状及び課題】

- 歴史民俗資料館運営委員会で、展示資料の整理の考え方について議論が行われています。
- 世界遺産登録後は観光客の増加が見込まれますが、施設はバリアフリー化がなされていません。
- 1 日当たりの利用者数は 38 人で同種の施設の平均（250 人）より少なくなっています。
- 市民対話では、
「池島炭鉱についての展示は、池島との船が通っている神浦に展示するのがいいのでは。」
「施設が古く、バリアフリーではない。大規模改修か縮小建て替えを行っては。」
「出津文化村の核となる拠点施設として残してもらいたい。」
「地域独特のキリシタン資料、出津地区の土器の資料は残してもらいたい。」
「出津地区公民館が近くにあるので資料館の会議室は不要では。」
という意見が出されました。

遠藤周作文学館



【建築年】2000 年

【開館時間】9 : 00～17 : 00

【休館日】年末年始

【年間利用者数】24,335 人

【1 日当たりの利用者数】68 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 故遠藤周作氏の貴重な資料を展示するとともに、遠藤文学に関する収蔵資料の調査研究を行い、情報発信を行うことを目的に設置されています。
- テラスからは角力灘を見下ろす絶好のロケーションを楽しむことができます。

【現状及び課題】

- 1 日当たりの利用者数は 68 人で同種の施設の平均より少なくなっています。
- 世界遺産登録後は外海地区を訪れる観光客の増加が見込まれますので、他の観光施設との連携や、更なる施設の PR に努める必要があります。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

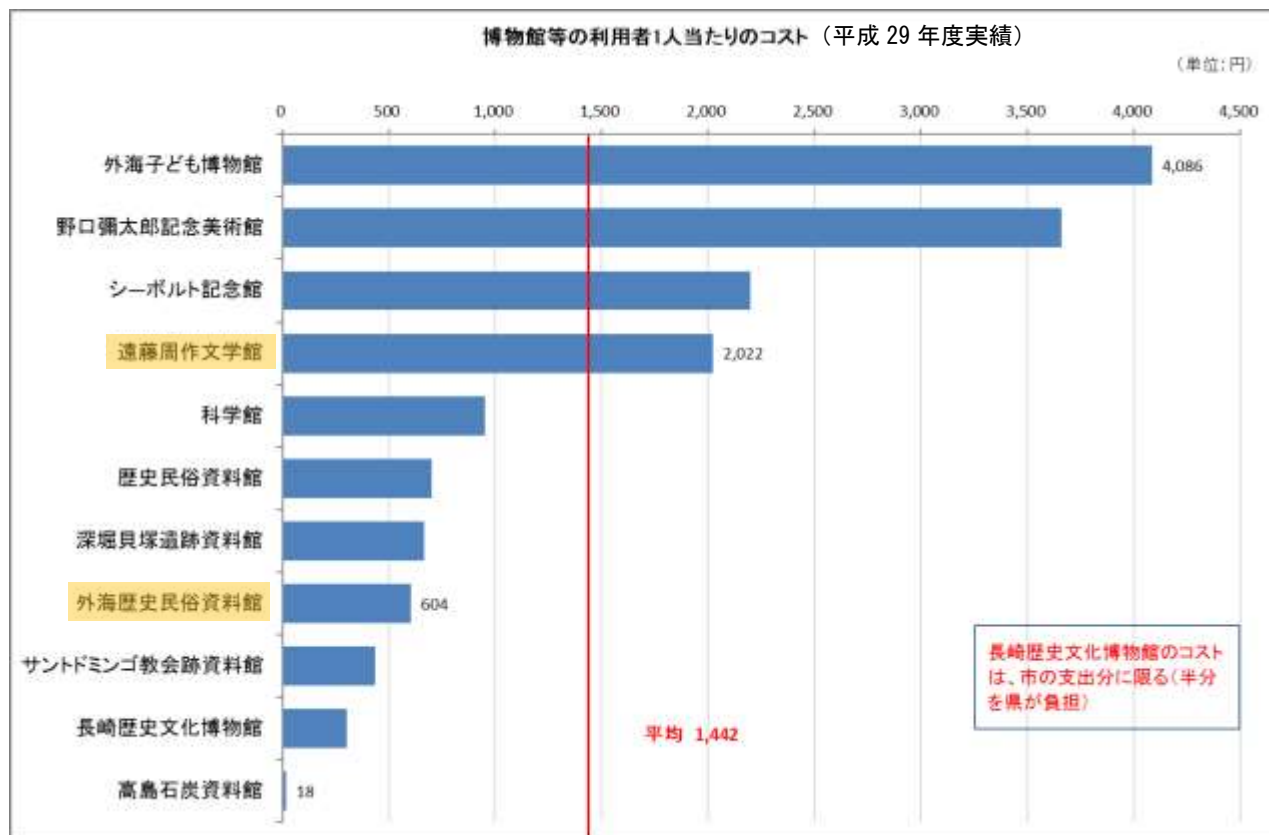
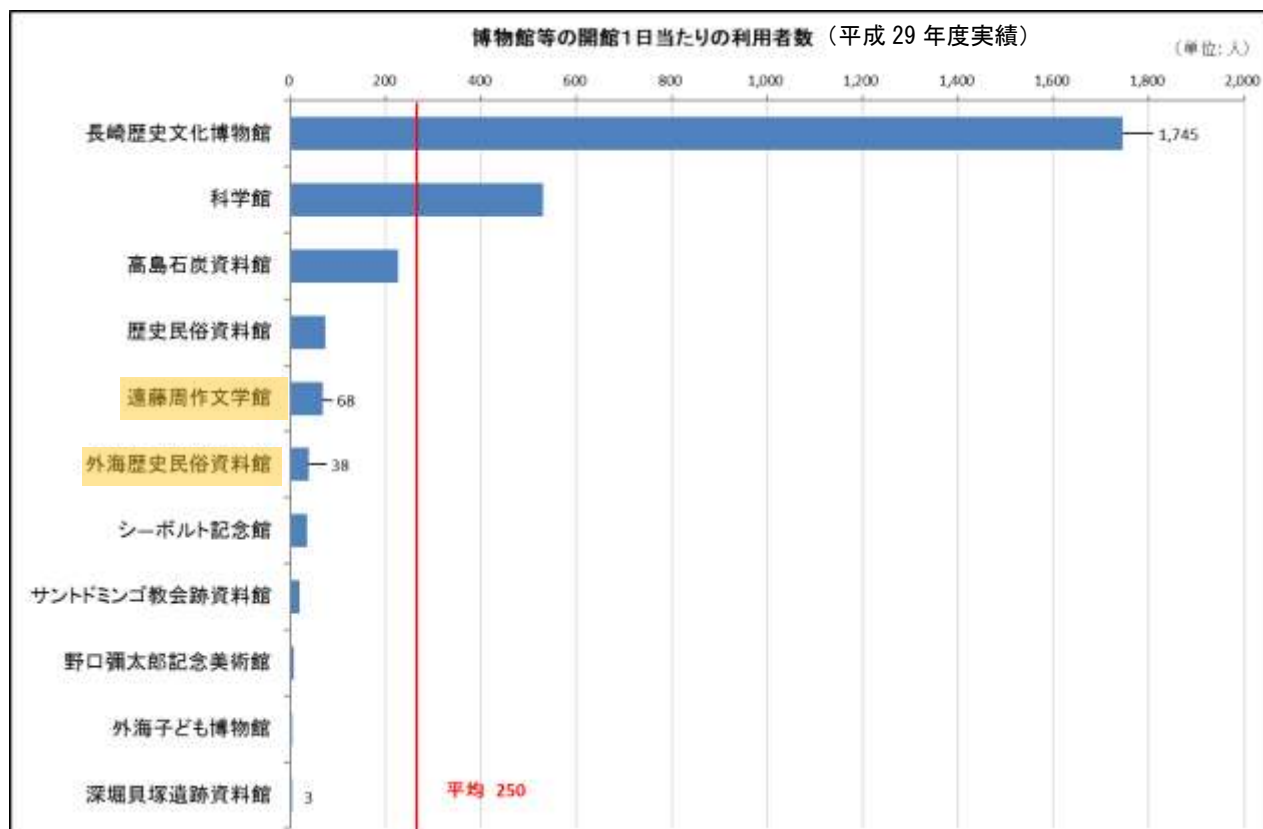
歴史民俗資料の展示や保存については、将来的に平野町の歴史民俗資料館に集約しますが、池島炭鉱やキリスト教関連の資料などの外海地区に特徴的な資料については、外海の地域内で引き続き展示する方針です。

現在、歴史民俗資料館運営委員会で、外海歴史民俗資料館の展示資料の整理の考え方について議論が行われており、その議論も踏まえて外海歴史民俗資料館の将来的な施設のあり方について検討します。

遠藤周作文学館については、遠藤文学ゆかりの地に立地し、貴重な多くの資料を有する施設として、引き続き適正に管理していきます。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
外海歴史民俗資料館				将来的な施設のあり方を検討する
遠藤周作文学館				適正管理を行う



④文化財（ド・ロ神父記念館）

文化財の
活用の考え方

文化財は、地域の歴史や文化に欠くことのできない大切な財産として、文化財保護法に基づき、保存・継承・活用することが求められています。長崎固有の指定有形文化財等を観光資源として活用することにより、交流人口の拡大に寄与するなど、観光施設としての側面もあるため、積極的な活用を努め、観光地としてのさらなる魅力の向上を図ります。

ア 現状及び課題

ド・ロ神父記念館



【建築年】1885 年

【開館時間】9 : 00～17 : 00

【休館日】年末年始

【年間利用者数】16,385 人

【1 日当たりの利用者数】46 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- ド・ロ神父の遺品を一堂に集めて、偉業、遺徳を永久に顕彰することを目的として設置されており、国の重要文化財及び県の史跡に指定されています。

【現状及び課題】

- 世界遺産登録後は外海地区を訪れる観光客の増加が見込まれますので、周辺の観光施設との一層の連携を検討する必要があります。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

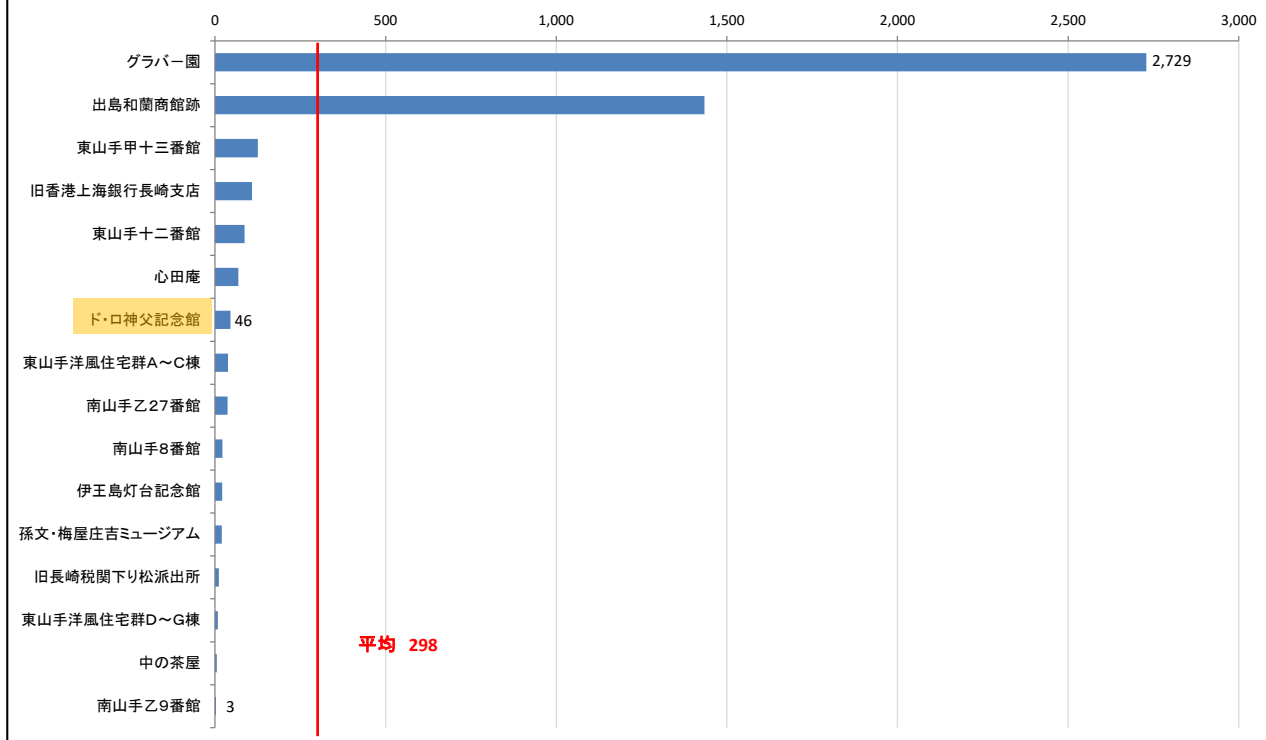
ド・ロ神父記念館については、文化財保護法等に基づき、保存・継承・活用することが求められており、引き続き適正管理に努めます。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
ド・ロ神父記念館				重要文化財として適正に管理する

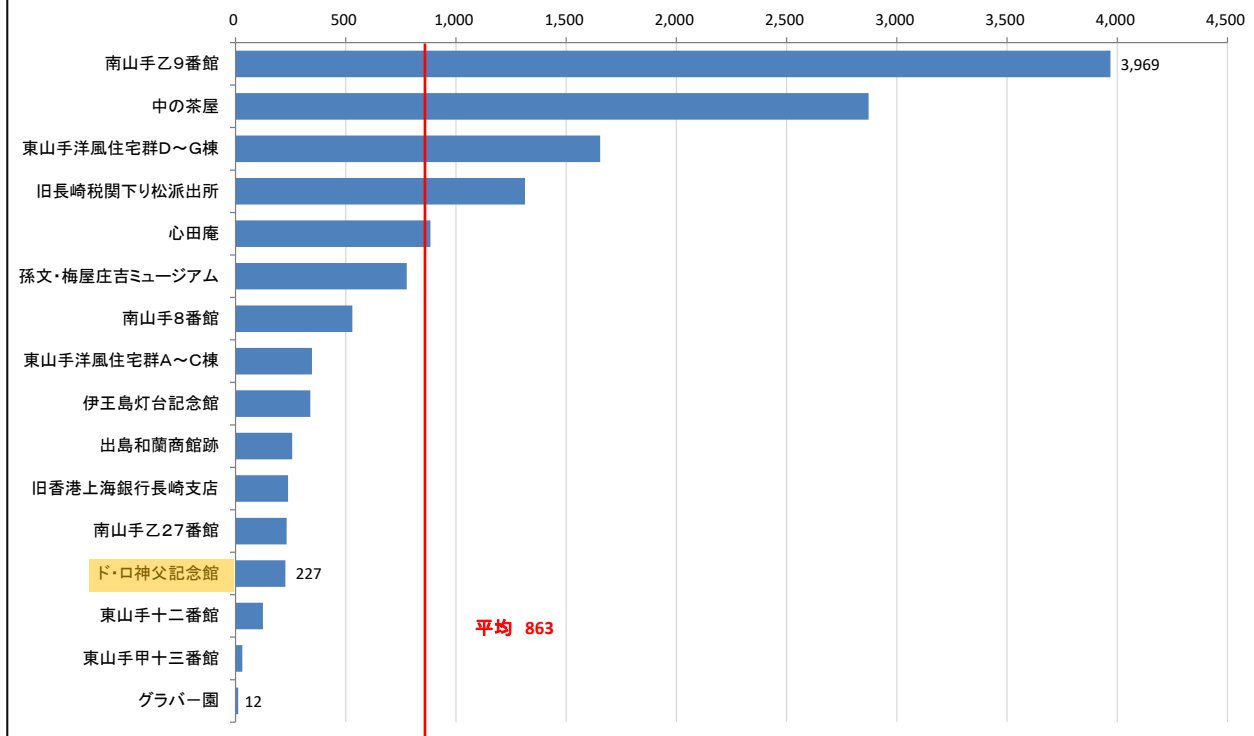
文化財の開館1日当たりの利用者数 (H29 年度実績)

(単位:人)



文化財の利用者1人当たりのコスト (H29 年度実績)

(単位:円)



⑤市営宿泊施設（外海ふるさと交流センター、池島中央会館）

市営宿泊施設の
施設配置の
基本的な考え方

観光客の中でも特に経済効果が見込まれる宿泊者を、今後更に増加させるためには、宿泊施設の確保は必要ですが、宿泊施設の運営は本来、民間事業者任せの分野であり、原則として既設の市営宿泊施設は将来的に廃止もしくは民間移譲を行います。

ア 現状及び課題

外海ふるさと交流センター



【建築年】1993 年

【開館時間】客室 15:00 ～ 翌日 10:00

会議室 9:00 ～ 21:00

【休館日】施設の保守点検日等

【年間利用者数】13,836 人（レストラン利用者を含む）
（切符売場利用者を除く）

【1日当たりの利用者数】38 人

※利用者、稼働率は平成 29 年度実績

【概要】

- 主に帰省客、観光客及び工事等業者から利用されています。
- レストランのみの利用もできます。
- 客室は 10 室。会議室が 2 室。（70 名収容と 20 名収容）
- 1 階に、地域センター、船客の切符売場・待合所があります。

【現状及び課題】

- 客室の利用状況は、1 日平均 3.7 室ですが、お盆、年末年始の帰省シーズンには客室が不足している状況です。※満室日は年間 32 日（2017 年度）
- 市民対話では、
「平成 29 年 10 月以降、2 階の執務室が空きスペースとなっているので、宿泊室を増設してはどうか。」
という意見が出されました。

池島中央会館



【建築年】1979 年

【開館時間】客室 16 : 30 ～ 翌日 10 : 00
客室以外 8 : 00 ～ 16 : 45

【休館日】年末年始

【年間利用者数】961 人（うち客室利用者数 : 874 人）

【1 日当たりの利用者数】3 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 客室は 7 室、会議室、研修室、調理室
- 主に島外からの観光客や島内での仕事関係者などに利用されています。

【現状及び課題】

- エレベーター、多目的トイレはありません。また浴室が 3 階にあり、宿泊客への食事の提供はありません。
- 客室、貸室とも稼働率が低く、ほとんど使用されていない部屋があります。
- 浴室が 1 ヶ所しかなく男女兼用となっているため、利用する場合は男女別の入浴時間を設けています。
- 市民対話では、
「コミュニティ施設としても有効活用をしてほしい。」
「1 階の展示をもっと PR をしてほしい。」
「宿泊施設としての機能充実が今後の島のあり方を左右する。」
「浴場を整備して、デイサービスもできるようにして、島民も利用できるようにしては。」
「小売りや飲食の機能を移転して、島民の皆さんが集う場になれば。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

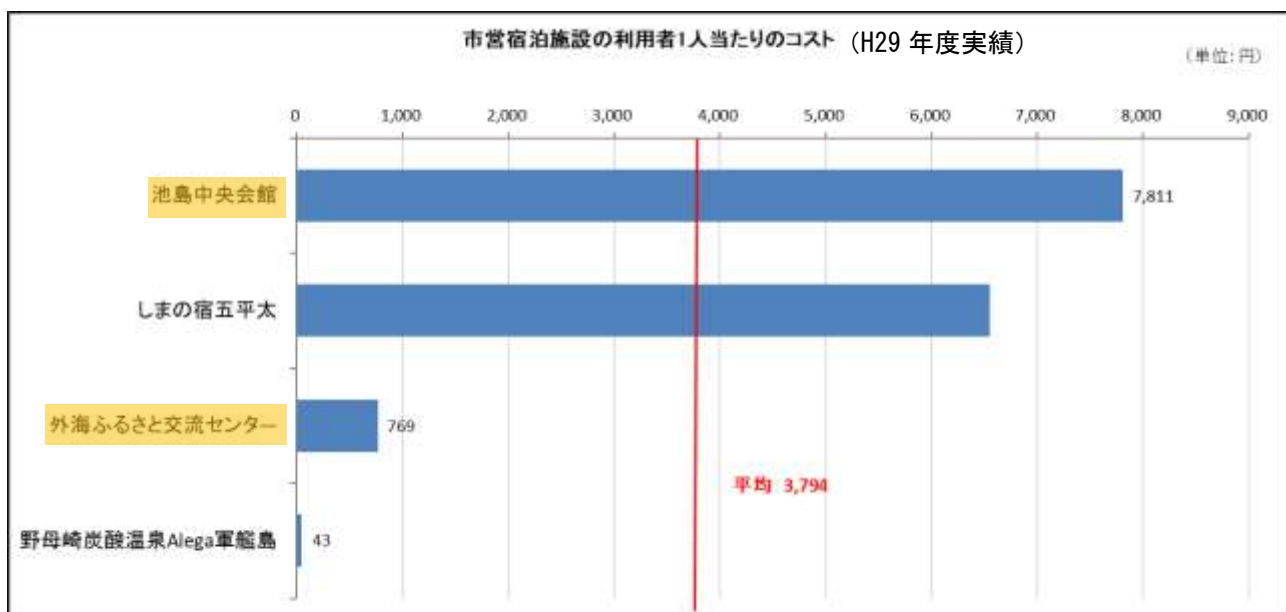
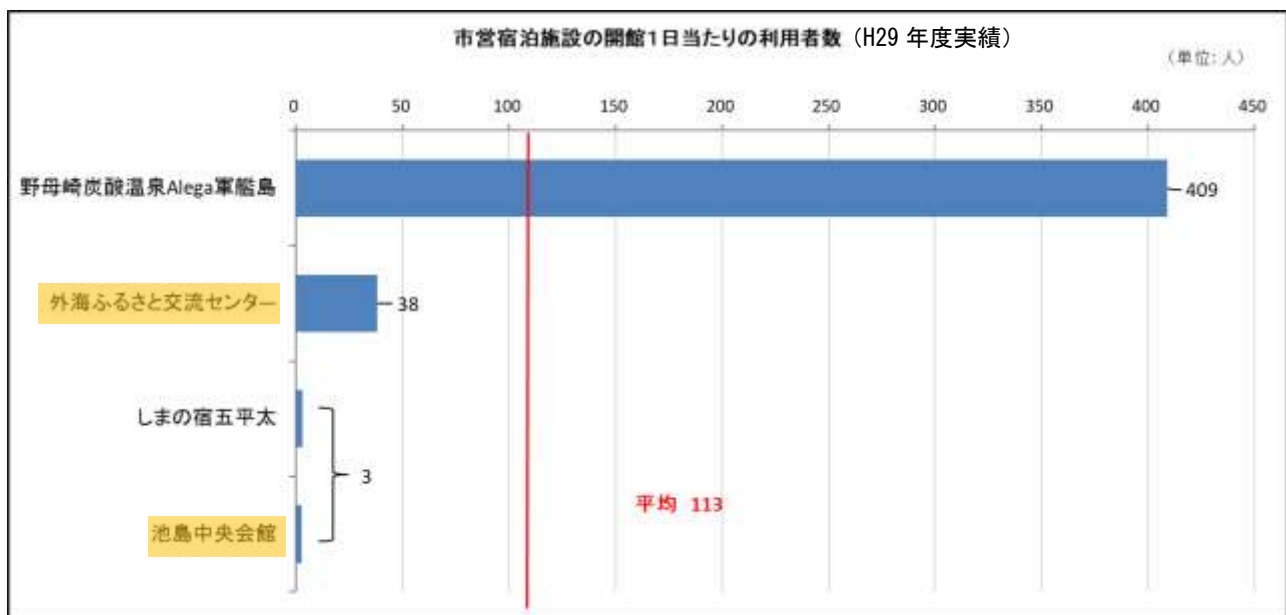
外海ふるさと交流センターの宿泊機能については、隣接する西海市に宿泊施設ができたことに伴い、宿泊者数が減少していること、また、都会の住民等が外海地区の自然や文化、住民との交流を楽しむことを主目的とした滞在型の余暇活動であるグリーンツーリズムに対応した民泊施設も複数あることなどから、指定管理終了時期（令和 8 年度末）に合わせて宿泊機能を廃止に向けて検討します。

池島中央会館は島内唯一の宿泊施設であり、民間運営も見込めないことから、現在の施設が使用可能な間の宿泊機能については、行政が継続して維持し施設の適正な管理に努めますが、今後とも、効率的な運営のあり方を継続的に検討します。

施設機能の整備については、他の施設機能の集約の検討と合わせ、必要性を検討します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
外海ふるさと交流センター	→			指定管理終了時期（令和8年度末）に合わせて宿泊機能を廃止に向けて検討する
池島中央会館	→			施設の適正な管理に努め、効率的な運営のあり方は継続的に検討する

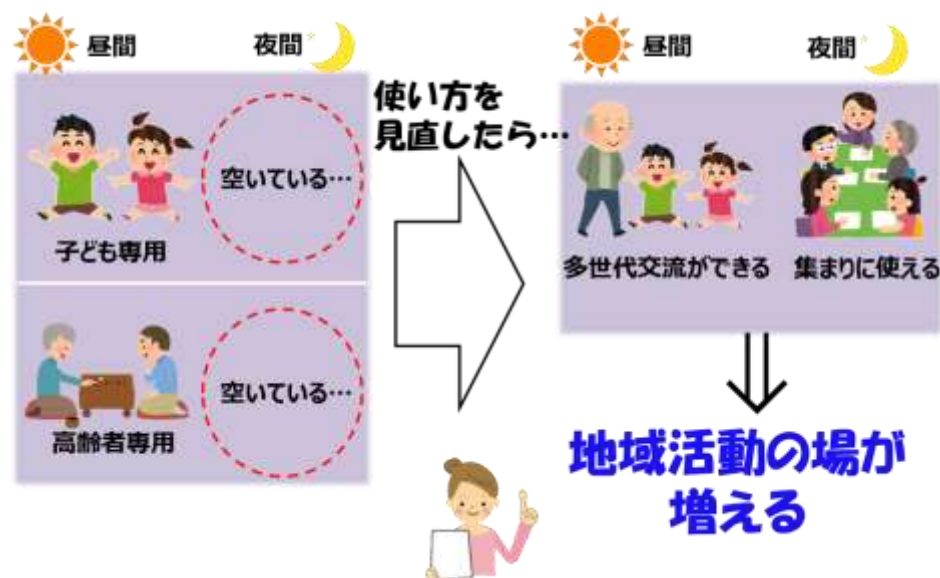


⑥コミュニティ活動施設（外海公民館、黒崎地区公民館、出津地区ふれあいセンター、老人福祉センター開陽山荘、池島開発総合センター、池島地区公民館、老人憩の家池島荘）

人口減少、少子高齢化が進むなかで、地域住民がふれあい、共に助け合うことで地域の中で心地よく暮らせるような、住みよい地域社会づくりを目指しており、そのためには、住民が気軽に立ち寄れ、地域活動などが行える地域コミュニティの活動の場（「居場所」・「話し合いの場」・「活動の場」・「生涯学習の場」）が必要です。

今後は、ふれあいセンターや地区公民館など、地域の身近な施設に加え、特定年齢層を利用対象とした施設（児童厚生施設等）も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。

コミュニティ活動施設の施設配置の基本的な考え方



施設の大規模改修又は建替え時期には、コミュニティの形成状況、人口動態、利用状況及び同地区内にある市の既存施設の状況なども考慮しながら、施設の廃止や施設規模及び機能の見直しを検討します。

(1) 小学校区に配置する施設

コミュニティ活動の場の配置については、市民に最も身近な場所でサービスを提供することができる範囲である、概ね小学校区へ配置します。

(2) 中学校区に配置する施設（兼小学校区施設）

多数の人数が見込まれる等の活動や行事のため、小学校区にある施設よりも広いスペースや特定の設備を備えた施設については、概ね中学校区での配置とします。中学校区に配置する施設は、小学校区に配置する施設を兼ねることとします。

なお、中学校区に配置する施設の標準規模は、延べ床面積 600 m²程度とし、集会室、会議室、調理室、図書室などの機能を有する施設を基本として配置することとします。

(3) 広域的利用として配置する施設（兼中学校区施設）

中学校区を超えた大規模な催しや講座等が可能な施設として、中学校区にある施設よりも広いスペースやホールなど特定の設備を備えた施設については、都市計画マスタープランにおける地域拠点または交通の便の良い場所に3か所配置します。広域的利用として配置する施設は、中学校区に配置する施設を兼ねることとします。

(4) 全市的利用として配置する施設（兼広域的施設、兼中学校区施設）

広域的利用として活用する施設と同様に大規模な催しや講座等が可能な施設として、広いスペースやホールなど特定の設備を備えた中央公民館及び北公民館を交通の便利のよい都心部及び都心周辺部に配置します。

ア 現状及び課題

外海公民館



【建築年】1970年

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始

【年間利用者数】7,209人

【1日当たりの利用者数】24人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 主に講座や自治会・行政の催しなどで使用されています。

黒崎地区公民館



【建築年】2015年

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始

【年間利用者数】5,045人

【1日当たりの利用者数】17人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 主に講座や自治会・行政の催しなどで使用されています。
- 外海地域センター黒崎事務所が併設されています。

出津地区ふれあいセンター



【建築年】1982年

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始

【年間利用者数】2,814人

【1日当たりの利用者数】10人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 主に講座や自治会・行政の催しなどで使用されています。

- 旧子ども博物館を転用し、改修のうえ活用している施設です。(平成30年9月移転開館)
併せて、まちづくり記念館にあったガイドステーション機能も移転しました。

共通

【現状及び課題】

- 行政が運営する公民館から、地域が運営するふれあいセンターへの移行について、地域と協議を進め、「より使いやすく」「より集まりやすい」地域コミュニティの拠点を目指します。
- 市民対話では、
「ふれあいセンター化で、より柔軟な使い方ができ、たくさんの人が利用できるようになるのでは」という意見が出されました。

老人福祉センター開陽山荘（2020年3月_用途廃止済）



【建築年】1980年

【開館時間】8:45～17:30

【休館日】日曜日、祝日、年末年始

【年間利用者数】1,369人

【1日当たりの利用者数】5人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 高齢者が、入浴、談話、グループ活動、サークル活動などを通して健康の増進を図るための施設です。

【現状及び課題】

- 1日当たりの利用者数は5人で、また利用者一人当たりのコストは、同種の施設で最も高くなっています。
- 建物は老朽化し耐震性がなく、ボイラー設備は耐用年数を迎えています。今後も施設を維持していくためには多額の費用が必要となります。
- 施設がある旧出津小学校区内には、同じような使い方ができる施設（出津地区公民館）があるため、使い方や管理方法を見直していく必要があります。
- 市民対話では、
「今後の改修費を考えると廃止はやむを得ない。」
「入浴機能を他で確保できれば、廃止もやむを得ない。」
「入浴だけの利用者は数名なので代替を考える必要はないのでは。」
「社協はどうなるのか、移転するのか、災害時の連絡活動場所はどうなるのか。」
という意見が出されました。

池島開発総合センター



【建築年】1987 年

【開館時間】8 : 00～16 : 00

【休館日】日曜日、祝日、第 2 土曜日、年末年始、8 月 14 日～16 日

【年間利用者数】4,687 人

【1 日当たりの利用者数】13 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 炭坑さるくの説明や休憩場所、行政や自治会の会議などで使用されています。

【現状及び課題】

- 池島地区内に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（池島地区公民館、池島荘）があるため、使い方や管理方法を見直していく必要があります。
- 市民対話では、
「一番利用されている施設だと思う。」
という意見が出されました。

池島地区公民館（2019 年 3 月_用途廃止済）



【建築年】1967 年

【開館時間】9 : 00～22 : 00

【休館日】月曜日、祝日の翌日、年末年始

【年間利用者数】683 人

【1 日当たりの利用者数】2 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 主に図書の閲覧・貸出しなどで使用されています。

【現状及び課題】

- 老朽化が著しく、ほとんど使用されていない部屋があります。
- 池島地区内に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（開発総合センター、池島荘）があるため、使い方や管理方法を見直していく必要があります。
- 市民対話では、
「図書機能を残してくれるのであれば、他の施設への移転は賛成。」
「廃止の場合、従事者はどうなるのか。」
「利用価値がない施設をなくすのはいいが、働いている人がいるということも考えながら検討してもらいたい。」
という意見が出されました。

老人憩の家池島荘（2025 年 3 月末用途廃止済）



【建築年】1974 年

【開館時間】10：00～16：30

【休館日】日曜日、祝日、年末年始

【年間利用者数】2,739 人

【1 日当たりの利用者数】9 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【概要】

- 一般の高齢者の他、デイサービス利用者の入浴、自治会の会議などで利用されています。
- 投票所、避難所として活用されています。

【現状及び課題】

- ボイラー設備が 2023 年に設置後 15 年を経過し、耐用年数を迎える予定です。
- 池島地区内に同じような使い方（地域の集まりや趣味教室など）ができる施設（開発総合センター、池島地区公民館）があるため、使い方や管理方法を見直していく必要があります。
- 市民対話では、
「デイサービス利用者の入浴機能は必要なのは。」
「1 人で入浴できない方が利用されているので心配。」
「入浴サービスを一般の浴場で行うのは難しいのでは。」
「介護サービスは必要。」
「入浴機能を廃止するまでの介護サービスの利用の状況は、どうなるかわからない。（増加するかも）」
という意見が出されました。






イ 施設のあり方や見直しの方向性

外海地区においては、既に小学校の適正配置が行われているため、地形、交通事情などを考慮し、旧小学校区ごとにコミュニティ活動施設を配置します。

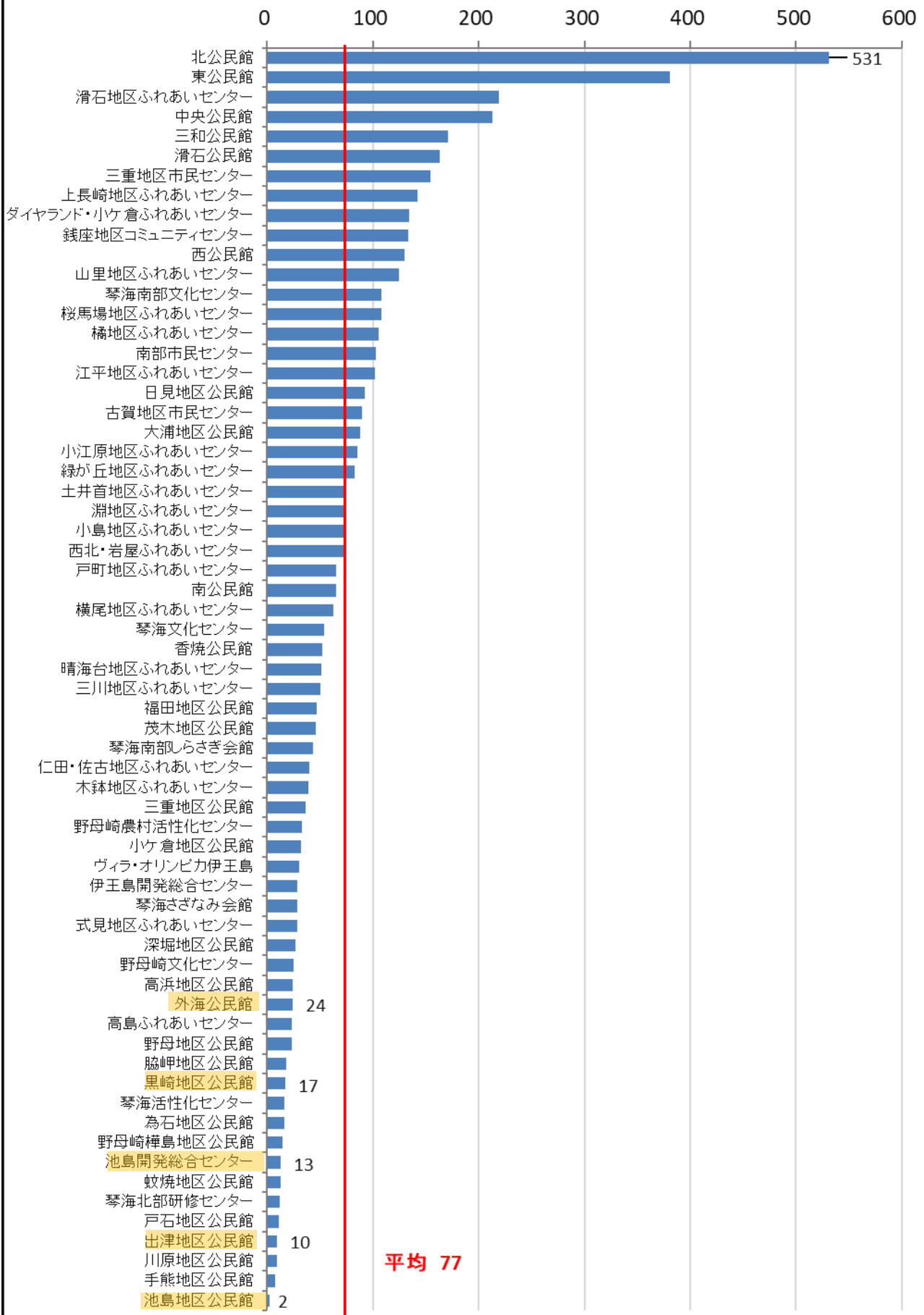
- 外海公民館については、築 55 年となり老朽化が進んでいます。また、外海ふるさと交流センターの宿泊機能を廃止する（令和 8 年度末）こと、併設する外海地域センターも立地に課題があることから、住民の利便性向上などのため、旧神浦中学校跡地に 2 施設を複合化します。
- 黒崎地区公民館・出津地区公民館については、現在の施設を適切に維持管理を行いながら引き続き使用しつつ、地域活動の拠点としてより多様な活動ができる施設「ふれあいセンター」への移行について、地域と協議を進めていきます。
- 開陽山荘については、利用者が少ないこと、建物がボイラー設備も含めて老朽化し耐震性がないこと、バリアフリーでないこと、近隣に出津地区ふれあいセンターがあることから、施設については廃止することとします。（※2020 年 3 月末に用途廃止済み。）
- 池島開発総合センターは、島内で最も新しい施設であり、今後も適正な維持管理を図るとともに、余剰スペースに他の機能の集約を考えていきます。

- 池島地区公民館は、図書の貸し出し以外の利用者が少なく、老朽化も進んでおり耐震性もないことから、図書機能を島内の他の公共施設へ機能移転したうえで、施設を廃止します。(※2019年3月末に用途廃止済み。)
- 老人憩の家池島荘は、老朽化しているボイラー設備の更新時期(2023年頃)を目途に、入浴機能を廃止することとし、その後は、高齢者専用施設としては廃止し、現在の施設が使用可能な間の施設のあり方について、活用を検討します。

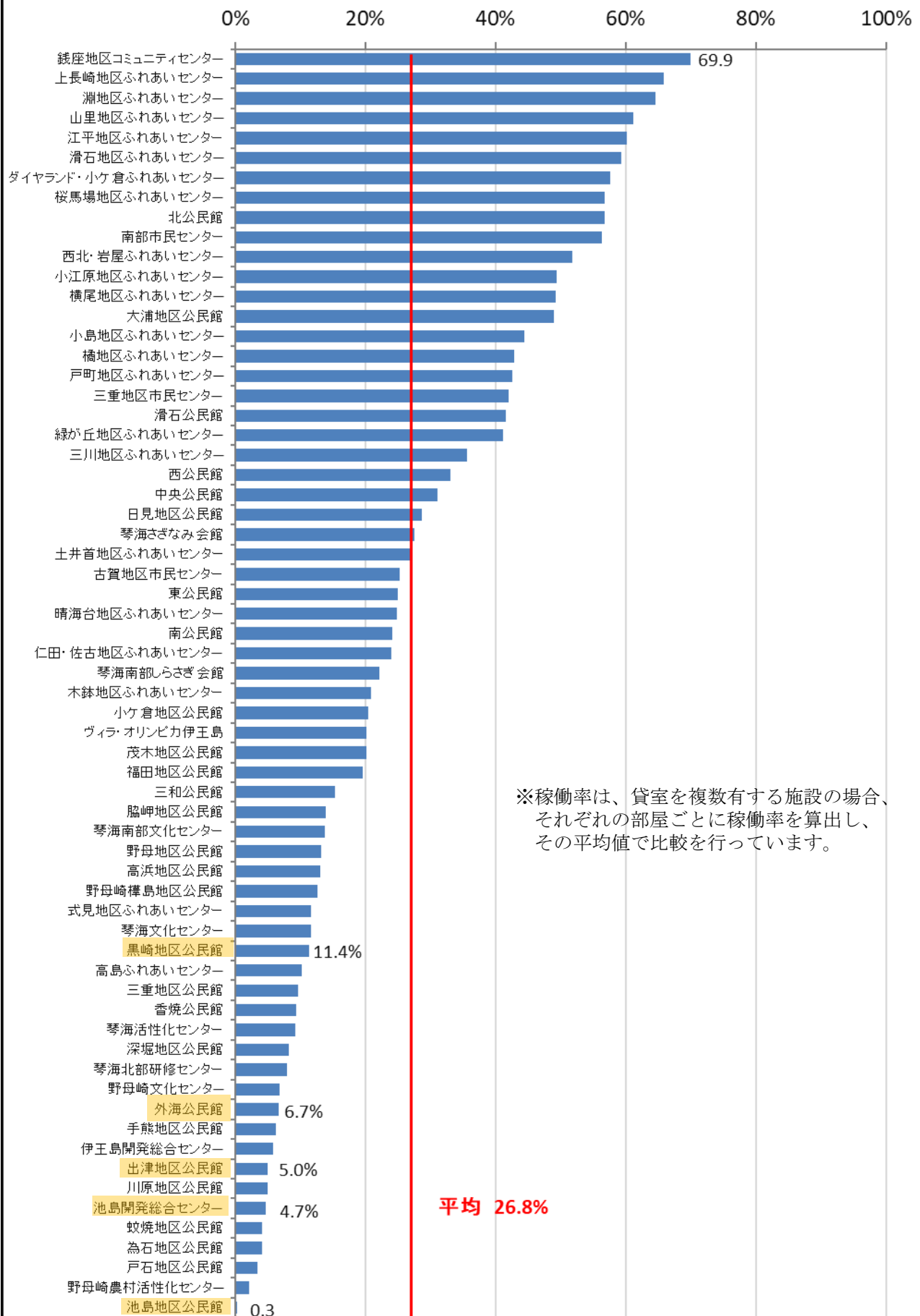
ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
外海公民館				外海地域センターと複合化を行う
黒崎地区公民館				適正管理を行う
出津地区ふれあいセンター				
老人福祉センター開陽山荘				近隣の出津地区ふれあいセンターへ機能を集約したうえで廃止する
池島開発総合センター				適正管理を行い、他の機能を集約する
池島地区公民館				図書機能を島内の他の施設に移転したうえで廃止する
老人憩の家池島荘				ボイラーの更新時期を目途に入浴機能を廃止する 高齢者専用施設としては廃止し施設のあり方を検討する

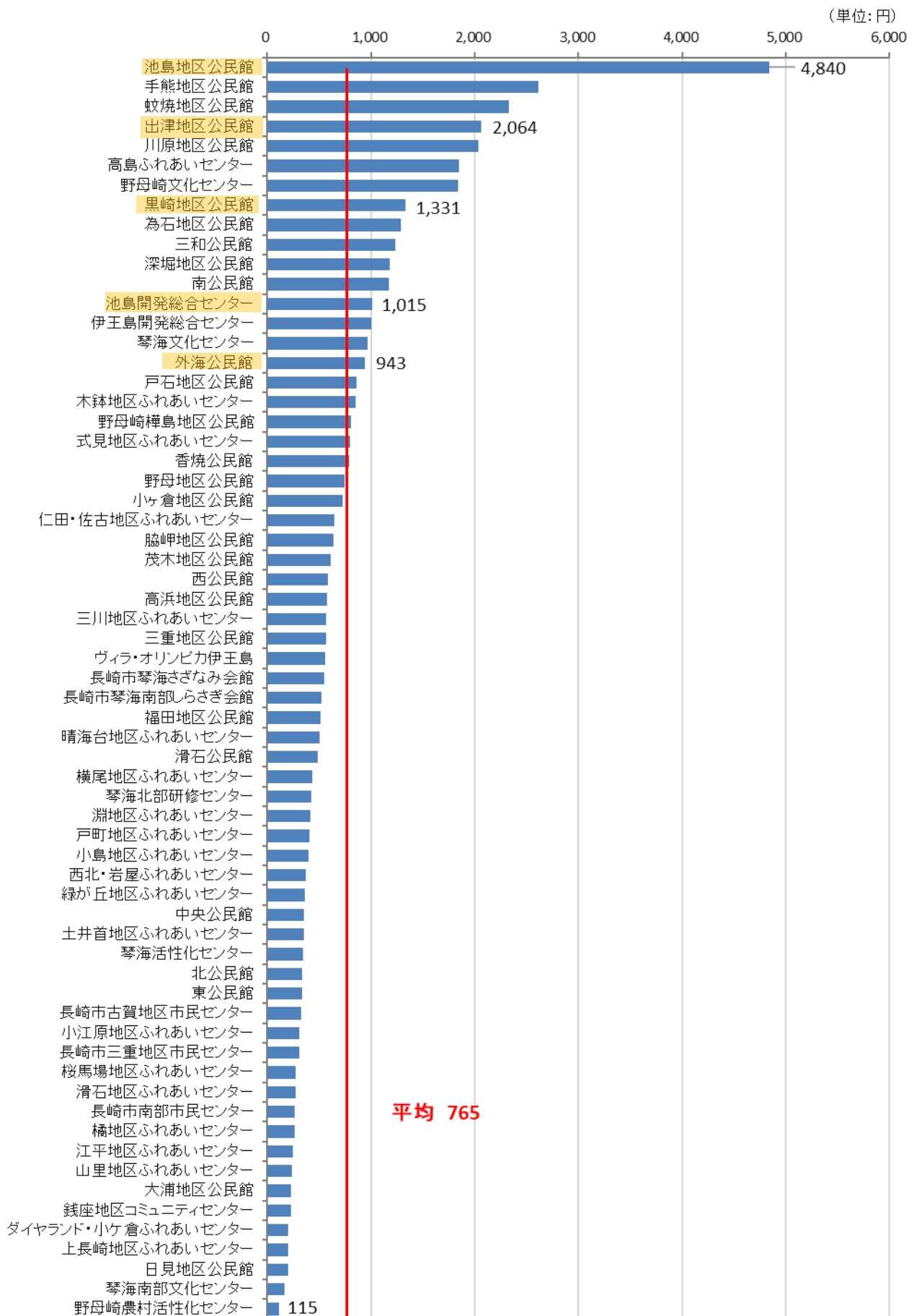
コミュニティ活動施設の開館1日当たりの利用者数（平成29年度実績）
（単位：人）

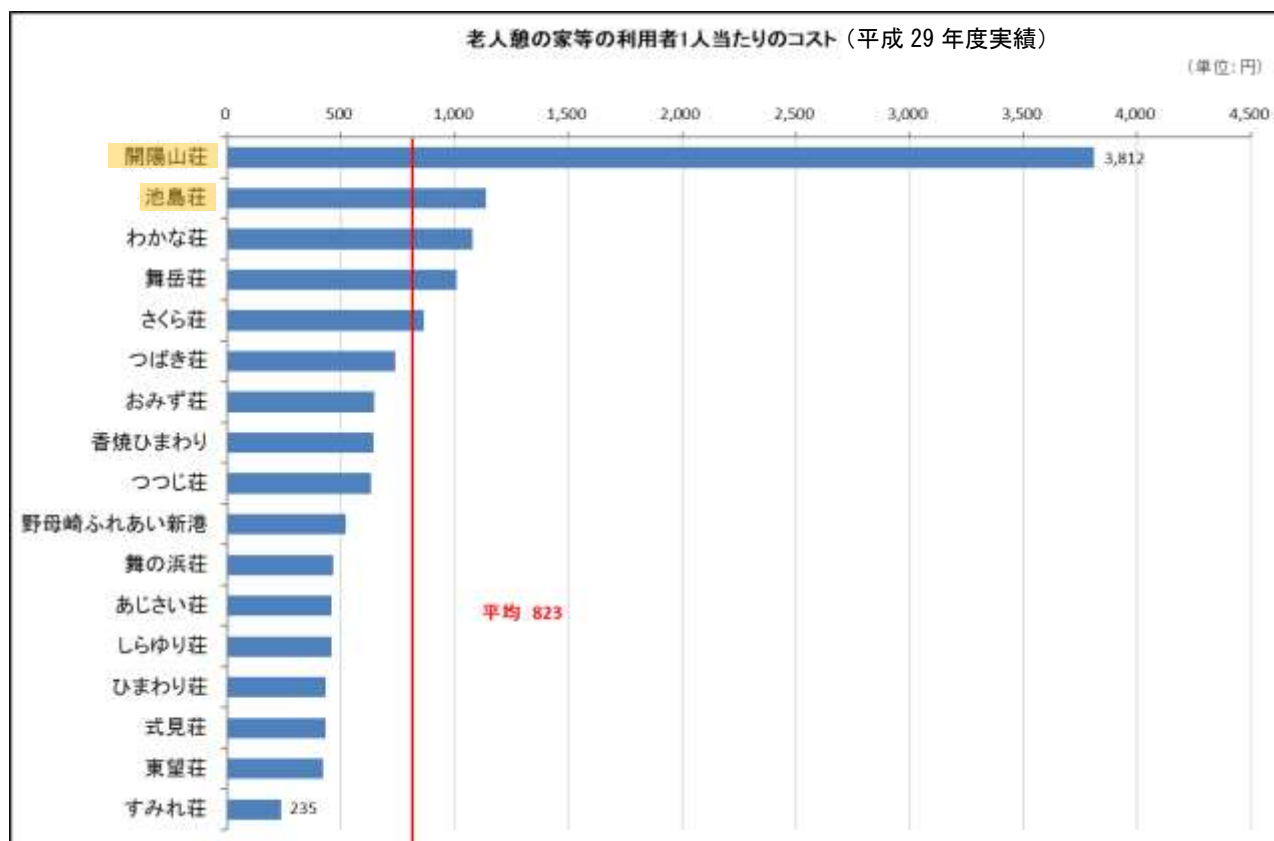
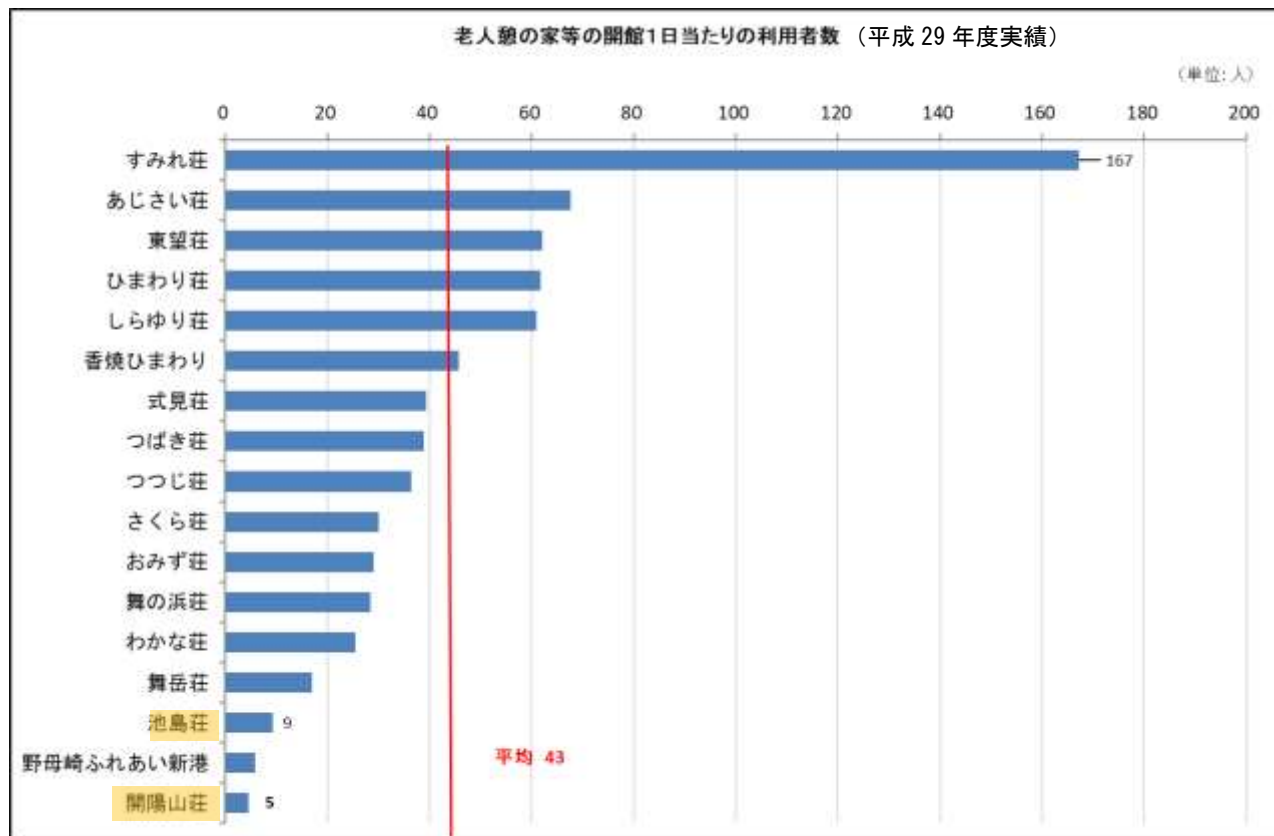


コミュニティ活動施設の貸室の稼働率（平成 29 年度実績）（単位：％）



コミュニティ活動施設の利用者1人当たりのコスト（平成29年度実績）





⑦学校（外海黒崎小学校、神浦小学校、外海中学校、池島小学校、池島中学校）

学校の施設配置の
基本的な考え方

学校は、児童生徒が確かな学力を身に付け、集団の中で社会性を育んでいく役割を担っています。また、学校行事や部活動などを通して人間性、協調性を育む場でもあります。

子どもたちは集団生活の中で学習することによって、知的にも社会的にも成長するため、一定の学校規模を確保する必要があります。

長崎市の小中学校の児童生徒数は、昭和 30 年代のピーク時と比較し、約 7 割減少していますが、その一方で、学校の数は大きく変わっておらず、多くの学校で小規模化が進んでいます。

このような中、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動ができるような学校規模を確保するため、「望ましい学校規模」として、小学校にあっては、人間関係の固定化を防ぎ、集団の中で多様な考え方にふれ、切磋琢磨できるよう、クラス替えができる 12 から 18 学級としています。

中学校では、これらに加え、全教科に教員配置ができることや、部活動の十分な選択ができることなどの理由により、9 から 18 学級とし、小中学校の規模の適正化と適正配置に取り組みます。

また、児童生徒の通学については、原則徒歩通学としますが、バス等の交通機関の利用を認める場合は小学校においては通学距離 2 km 以上、中学校においては 3 km 以上の際に通学費の一定額を補助しており（小学校で 4 km 以上、中学校で 6 km 以上の場合は全額補助）、自宅から学校までバス等の交通機関の利用を含めて概ね 1 時間以内の範囲で適正配置を行います。

ア 現状及び課題

外海黒崎小学校



【建築年】校舎：1993 年 体育館：1973 年

【児童数】42 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在

【概要】

- 平成 28 年 4 月に旧黒崎東小学校と旧出津小学校を統合し、平成 29 年 4 月から現校名に改称されています。

神浦小学校



【建築年】校舎：1994 年 体育館：1973 年

【児童数】30 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在

【概要】

- 敷地内に神浦・黒崎学校給食共同調理場が併設されています。

共通**【現状及び課題】**

- 過小規模校ですが、これ以上通学区域を広げて統合を行うと通学時間が1時間を超える区域が生じます。

外海中学校**【建築年】** 2019 年**【旧黒崎中学校の生徒数】** 52 人 ※生徒数は平成 30 年 5 月 1 日現在**【概要】**

- 平成 27 年 4 月に黒崎中学校へ神浦中学校が統合されました。
- 旧出津小学校跡地に新中学校校舎を建設したため、平成 31 年 4 月から現校名に改称され、開校しました。

【現状及び課題】

- 中学校統合に伴い、路線バスやコミュニティバスによる通学への対応を検討する必要があります。

池島小学校・池島中学校**【建築年】** 1959 年**【児童数】** 2 人 ※児童数は平成 30 年 5 月 1 日現在**【概要】**

- 運動場側の校舎で、小学校と中学校を運営しています。

【現状及び課題】

- 中学校は平成 27 (2015) 年度から休校となっていました、令和元 (2019) 年度から再開しています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 「長崎市立小学校・中学校における規模の適正化と適正配置の基本方針」に基づく、「学校規模の適正化と適正配置にかかる実施計画 (案)」において、小学校について、これ以上通学区域を広げて統合を行うと、通学時間が1時間を超える地区があるため、当分の間、地域の現状を見る必要があるとしております。現在の施設を引き続き使用し、適切な維持管理を行っていきます。
- 外海中学校については、適切な維持管理を行っていきます。
- 池島小学校・中学校については、学校の適正化については、既に地域と協議済みであり、当分の間、学校を存続することとし、今後のあり方については児童・生徒数等の推移をみて検討します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
外海黒崎小学校				適正管理を行う
神浦小学校				
外海中学校				
池島小学校 池島中学校				今後のあり方については、 将来的に児童・生徒数の動 向をみて検討する

⑧放課後児童クラブ（にっこクラブ）

放課後児童クラブ の施設配置の 基本的な考え方

子どもたちの放課後等における安全・安心な居場所の確保を図るために、小学校区ごとに放課後児童クラブを設置します。

児童数は、ほとんどの小学校において減少が見込まれるものの、保護者が安心して働けるよう、子どもたちの放課後等において、適切な遊びや生活ができる場所を提供する必要があるため、基本的には、小学校区ごとに利用見込みに応じた放課後児童クラブを配置することとしています。

放課後児童クラブの子どもの集団の規模は、放課後児童クラブ運営指針に基づき、子どもが相互に関係性を構築し、1つの集団としてまとまりをもって共に生活し、放課後児童支援員が個々の子どもと信頼関係を築くことができる規模として、概ね40人以下とします。

放課後児童クラブの配置については、学校の統廃合と併せて、事業者に対し放課後児童クラブの運営の統合を働きかけていくとともに、1つの事業者が複数の放課後児童クラブの運営を行うよう、調整を図ります。

また、学校の統廃合にかかわらず規模が小さい放課後児童クラブが生じる場合は、子どもたちの環境面や、クラブの運営面における影響を考慮し、特に利用児童数が10人以下の小規模の放課後児童クラブについては、適正な規模となるよう統合を図っていきます。

その際、放課後児童クラブが未設置校区となる児童については、既存の送迎支援に係る補助制度の利用を図りながら、安全面の確保を行っていきます。

新たな施設整備や施設の更新が必要となる場合は、事業者による施設整備を支援することで、子どもたちの放課後等における居場所の確保を図ります。

ア 現状及び課題

にっこクラブ



【建築年】1970年

【月平均登録者数】17人 ※月平均登録者数は平成29年度実績

【概要】

- 旧教職員住宅を活用し設置されています。

【現状及び課題】

- 神浦小学校は小規模校であり、今後も人口減少により児童数が減少すると予測されているため、放課後児童クラブの利用児童数も減少すると見込まれます。
- 施設が老朽化しています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

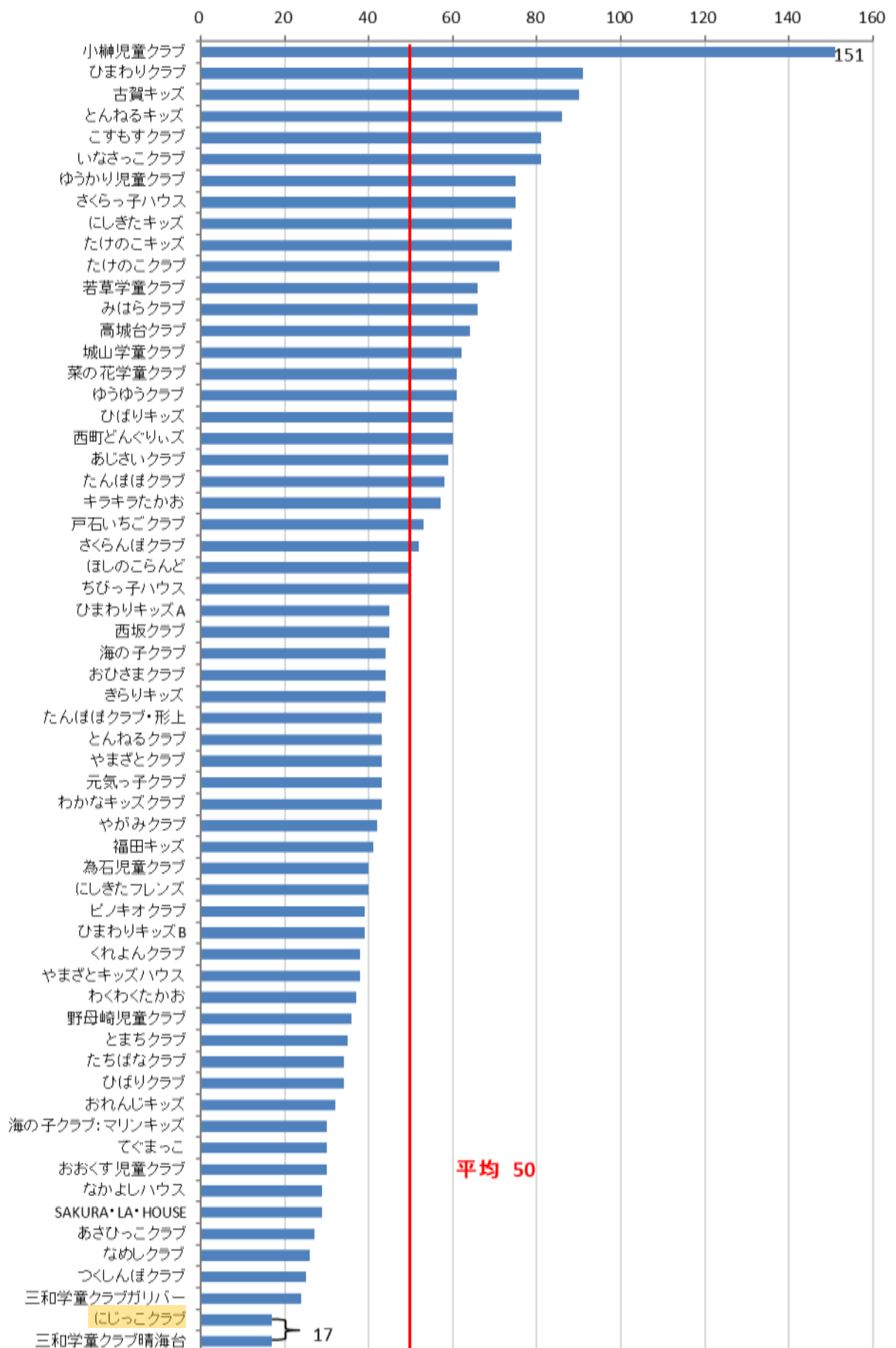
にじっこクラブが使用している建物は、老朽化が進んでいます。現在の施設を適正に管理していきますが、将来的には他の公共施設の余剰スペースの活用等を検討します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
にじっこクラブ				現在の施設を適正に管理し、将来的には他の公共施設の余剰スペースの活用等を検討する

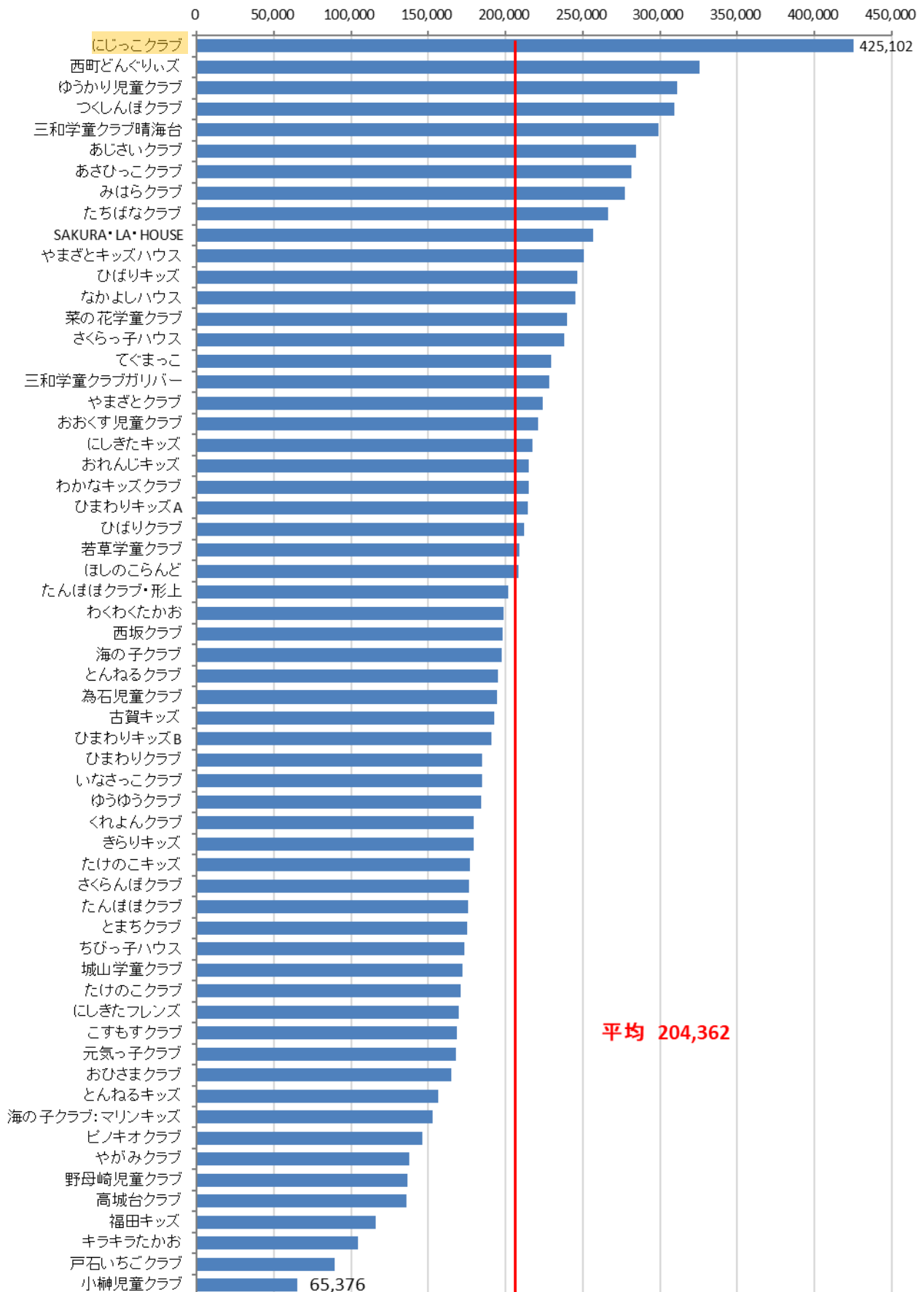
放課後児童クラブの施設別の月平均登録者数(平成29年度実績)

(単位:人)



放課後児童クラブの登録者1人当たりの年間コスト (平成 29 年度実績)

(単位: 円)



⑨保健施設（池島診療所）

保健施設の 施設配置の 基本的な考え方

保健施設では、医療の空白時間帯である夜間や年末年始の診療サービス及び離島やへき地など、民間による医療が不足している地域の診療サービスを行い、市民の健康を維持します。

診療所は、離島やへき地などの医療が不足している地域の診療サービスを行います。民間による代替も採算面から困難であるため、現行どおり、各1か所の配置とし、5か所（伊王島、高島、野母崎、池島、小口）とも配置しますが、他の施設との複合化や、患者数などの状況に応じて診療日数・運営方式の効率化を図っていきます。

ア 現状及び課題

池島診療所



【建築年】1971年

【診療時間】9:00～16:00

【休診日】土・日曜日、祝日、年末年始

【年間利用者数】1,272人

【1日当たりの利用者数】5人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 内科の診療科目を備え、地域医療の拠点となっています。

【現状及び課題】

- 島内唯一の医療機関です。民間による代替は採算面から困難です。
- 医療関係者の人材確保が課題です。

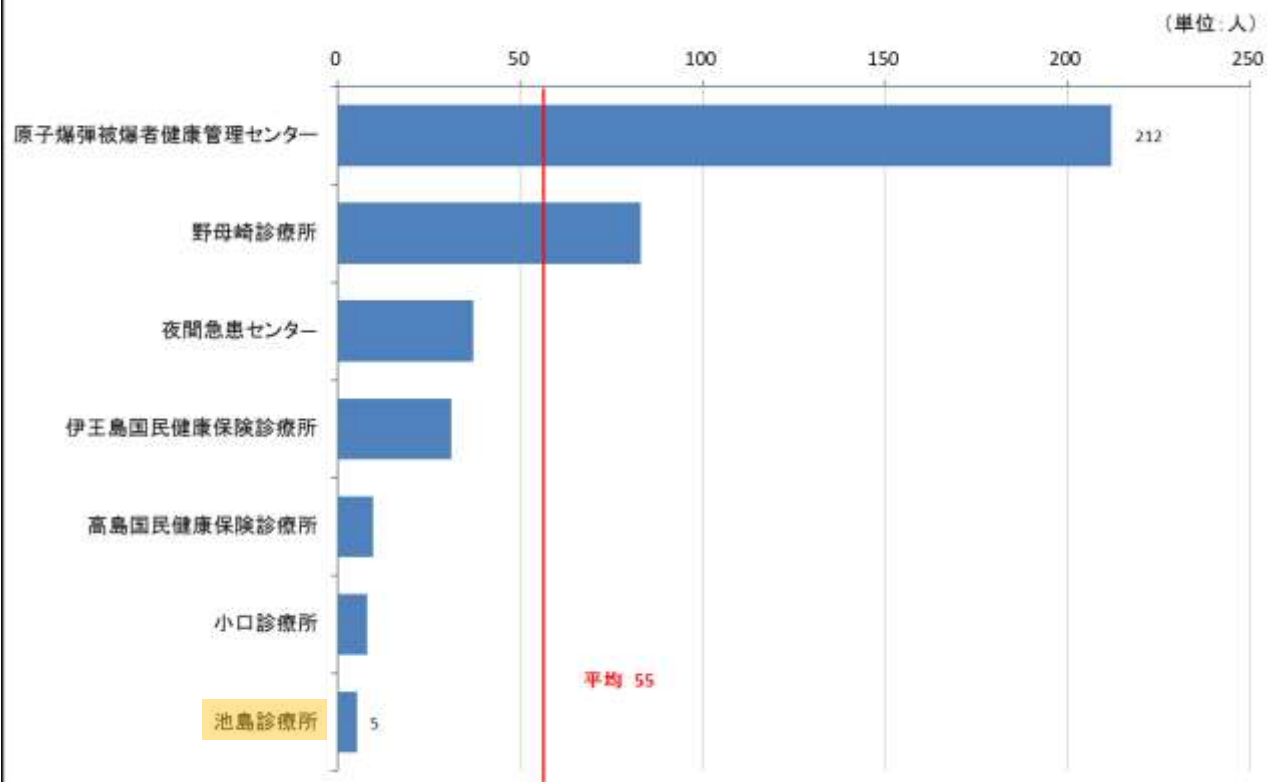
イ 施設のあり方や見直しの方向性

池島診療所については、地域医療確保の観点から、人材確保に努めながら現在の施設を引き続き使用し、適切な維持管理を行っていきます。

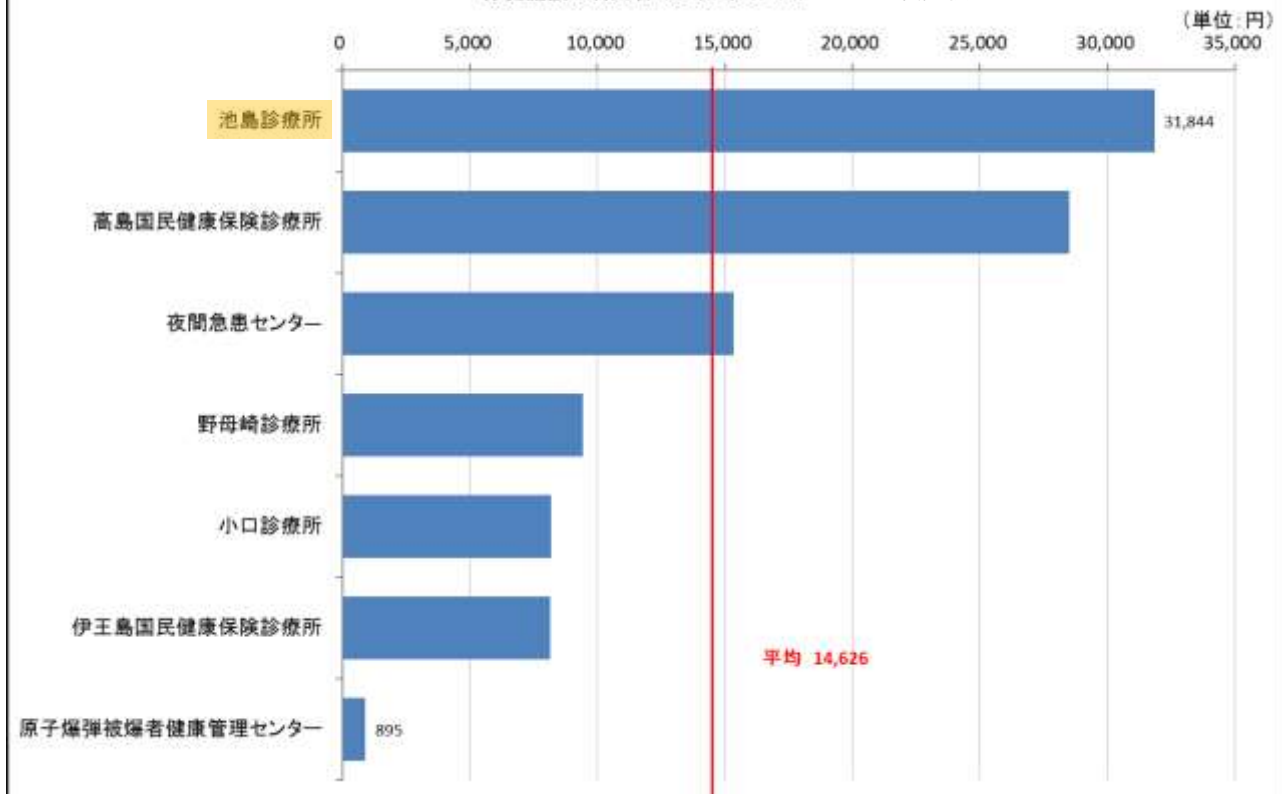
ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
池島診療所				人材確保に努めながら、施設については適正管理を行う

保健施設の開館1日当たりの利用者数 (H29 年度実績)



保健施設の利用者1人当たりのコスト (H29 年度実績)



⑩健康増進・入浴施設（池島港浴場、池島東浴場）

健康増進・入浴
施設の施設配置の
基本的な考え方

市民の健康増進及び公衆衛生の向上を図るため、風呂がない住宅が多く、民間参入が見込めない離島地区については、引き続き入浴サービスを提供することとしますが、利用者数の減少に伴い、必要な施設規模へ縮小し、既存施設を離島地区に1か所ずつ配置します。

ア 現状及び課題

池島港浴場



【建築年】1964年

【営業時間】16:00～21:00

【休業日】日曜日、1月1日、1月3日

【年間利用者数】8,584人

【1日当たりの利用者数】28人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 入浴設備がない市営住宅居住者等の公衆衛生の向上のため設置されています。

【現状及び課題】

- 築年数が古くなっており、バリアフリー非対応となっています。
- 入浴料100円（大人1人）に対し、800円のコストがかかっています。（平成29年度実績）

池島東浴場（2022年3月_用途廃止済）



【建築年】1970年

【営業時間】16:00～21:00

【休業日】土曜日、1月1日、1月3日

【年間利用者数】4,426人

【1日当たりの利用者数】14人 ※利用者数は平成29年度実績

【概要】

- 入浴設備がない市営住宅居住者等の公衆衛生の向上のため設置されています。

【現状及び課題】

- 築年数が古くなっており、バリアフリー非対応となっています。
- 東浴場のボイラー設備は、平成30年には設置後16年が経過し、既に耐用年数を迎えています。
- ボイラーの更新には、多額の費用がかかります。
- 入浴料100円（大人1人）に対し、1,673円のコストがかかっています。（平成29年度実績）
- 利用状況をふまえ、営業時間の見直しも検討しています。

共通

【現状及び課題】


- 市民対話では、
「統合に賛成だが、多くの人が港浴場を利用するようになるので、衛生面は清掃を心がけてほしい。」
「統合した場合、港浴場の男湯は狭いので、浴場の拡大が必要。」
「営業時間の短縮は賛成。」
「仕事の時間がずらせないので、時間短縮をするなら開場時間を遅くしてほしい。」
「港浴場までバスで行くとなると、バスの時間に合わせなければならず、自分の時間に合わない。」
「東浴場を港浴場に統合する場合、交通面は各自で、またはバス等を利用してもらっては。どうしても上で入りたいなら中央会館の風呂を利用したらいいと思う。」
「港浴場まで、上から毎日行くのは大変。」
「1日の終わりにお風呂に入るのに、バスに乗っていきたくない。」
「港浴場と東浴場は2つとも絶対必要。故障したときはどうするのか。」
「ボイラーの更新費用の積み立てはできないのか。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

入浴設備がない住宅が多く、民間の公衆浴場の参入が見込まれない池島島内においては、公衆衛生上の観点から引き続き入浴サービスは維持していきます。

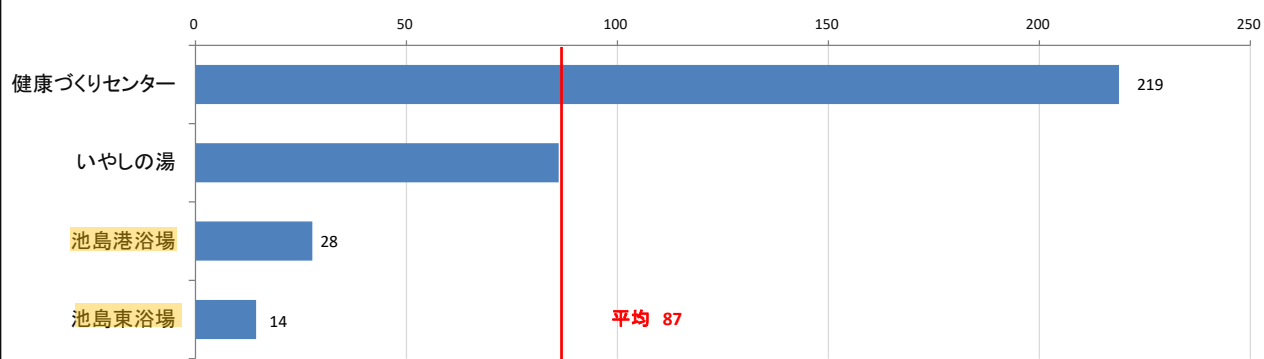
- 池島港浴場については、ボイラー設備を2012年に取替えたばかりで、利用者数も多いことから、東浴場と統合のうえ存続し、現在の施設を今後も適正に管理します。
- 池島東浴場については、ボイラー設備が耐用年数を迎えており、東浴場と港浴場の2か所の入浴施設を維持するには費用も多くかかることから、ボイラー設備が老朽化している東浴場へは新たな設備投資は行わず、港浴場へ統合します。
- 統合に向けては、2年間程度の経過期間を設け、統合に向けた課題（港浴場の浴槽の拡張等）を整理するとともに、港浴場への移動手段や中央会館の活用の問題などについても、具体的に地域の方と協議し課題を整理していきます。
- また、統合までの東浴場の営業時間について、冬時間（10月～3月に営業時間の1時間短縮）の導入を検討します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
池島港浴場				東浴場と統合に向けた課題を整理する
池島東浴場				用途廃止し港浴場に統合する 統合までの間、冬季の営業時間短縮を検討する

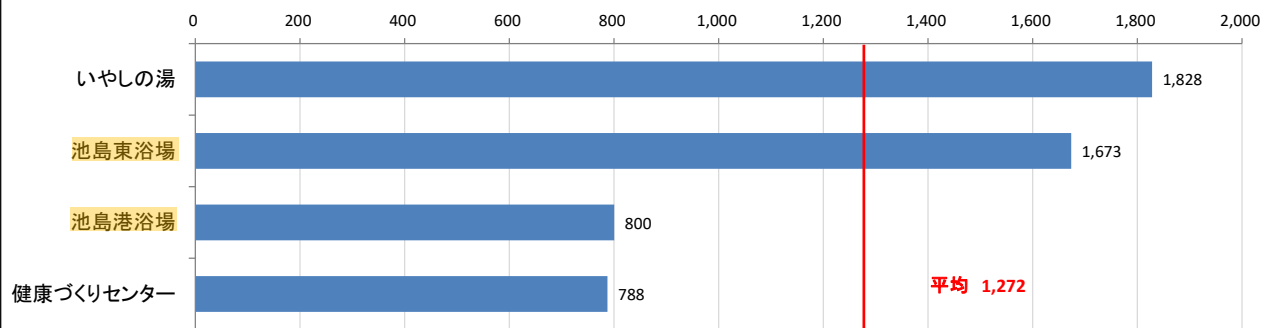
健康増進・入浴施設の開館1日当たりの利用者数（H29 年度実績）

（単位：人）



健康増進・入浴施設の利用者1人当たりのコスト（H29 年度実績）

（単位：円）



(2) 都市基盤・産業振興施設

①港湾施設（神浦港ターミナル、池島港船客待合所）


港湾施設の 施設配置の 基本的な考え方


人口減少が進むなか、航路利用者数も減少するものと考えますが、港湾施設は、離島地区の住民や観光客などの航路利用者にとって、公共交通ネットワークの結節点として必要不可欠な施設であることから、航路が存続する限り継続して配置します。

配置場所は、栈橋に近接し、施設から船舶の運航状況が目視で確認できる、航路利用者にとって利便性が高い場所で、港湾施設の機能（切符売場、待合所及びトイレ等）の維持を図ります。

なお、施設規模は、建替え時に縮小に向けた見直しを行います。

ア 現状及び課題

神浦港ターミナル	
	<p>【建築年】1993 年</p> <p>【営業時間】始発 6 : 45、最終 17 : 15</p> <p>【年間利用者数】11,778 人</p> <p>【1 日当たりの利用者数】32 人 ※利用者数は平成 29 年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 池島へ移動するための交通拠点であり、地域交通船とフェリーの発着所となっています。 ● 外海ふるさと交流センターの 1 階に設置されています。 ● 物販機能はありません。
	<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 神浦－池島間に、高速船が往復 1 便、フェリーが往復 2 便、地域交通船（小型船）が往復 4 便就航しています。 ● 高速船は池島経由で佐世保へ就航しています。

池島港船客待合所	
	<p>【建築年】1995 年</p> <p>【営業時間】始発 7 : 05、最終 18 : 40</p> <p>【年間利用者数】34,138 人</p> <p>【1 日当たりの利用者数】94 人 ※利用者数は平成 29 年度実績</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 神浦・瀬戸へ移動するための交通拠点であり、高速船・フェリー・地域交通船の発着所となっています。 ● 物販機能はありません。

【現状及び課題】

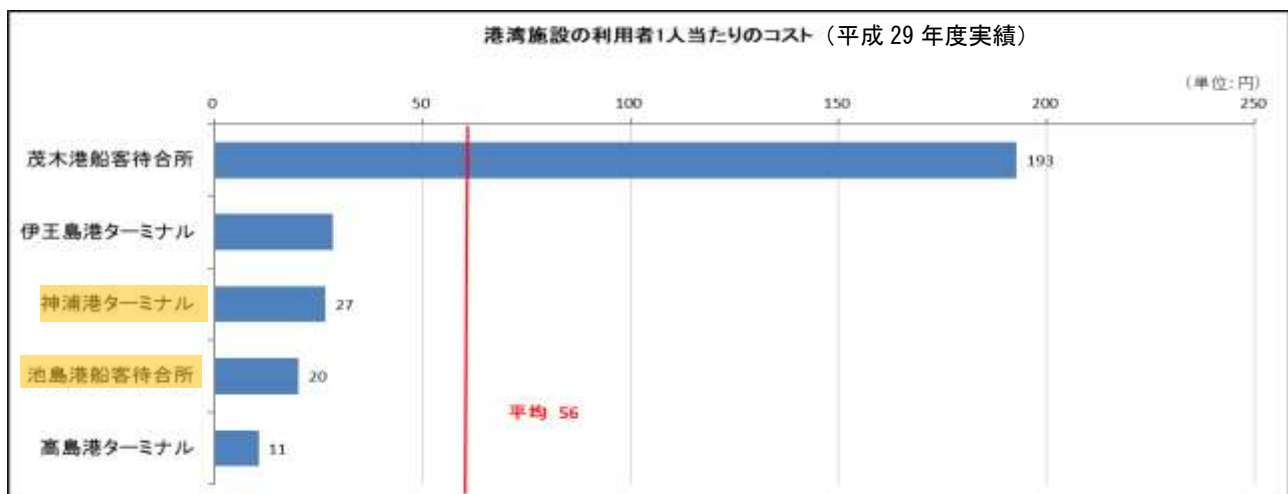
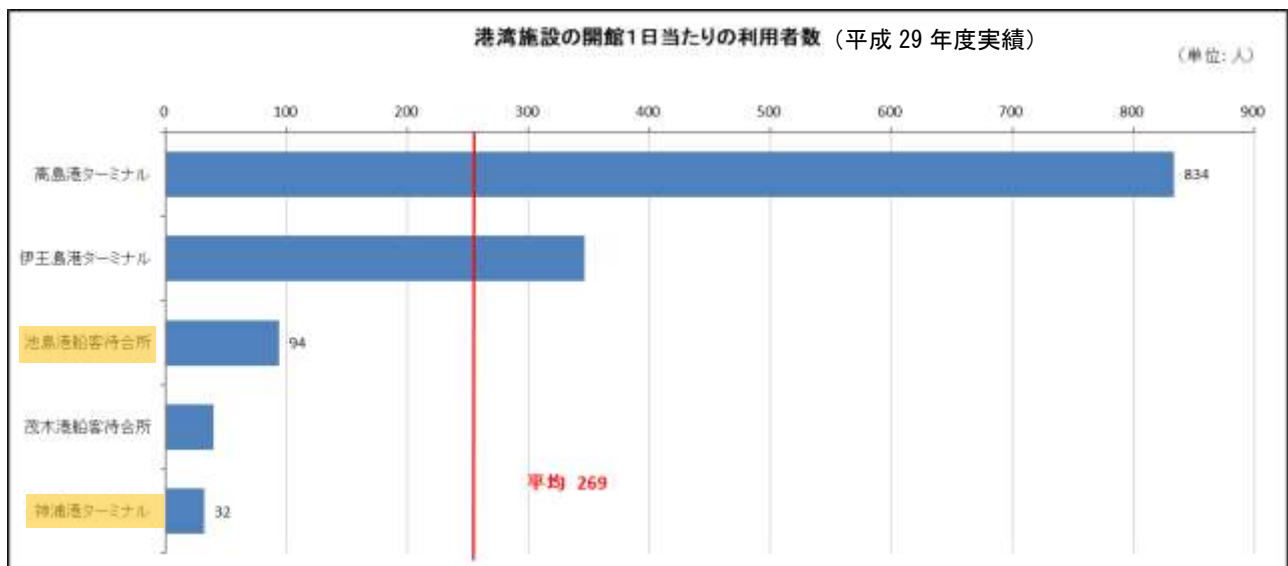
- 神浦－池島間の航路のほか、池島－瀬戸間に、フェリーが往復 5 便、高速船が片道 1 便、池島－佐世保間に高速船が往復 2 便就航しています。
- 池島地区の住民にとって必要不可欠な施設です。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

港湾施設は離島地区の住民や観光客などの航路利用者に必要不可欠であるため、航路が存続する限り、現在の施設を適正に管理し維持します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
神浦港ターミナル				航路が存続する限り、現在の施設を適正に管理する
池島港船客待合所				



②市営住宅（永田第1住宅、永田第2住宅、永田第3住宅、高尾住宅、松本住宅、松山迫住宅、出津住宅、西出津住宅、丸尾住宅、神浦住宅、夏井住宅、池島第1住宅、池島第2住宅、池島第3住宅、池島第4住宅）

市営住宅の 施設配置の 基本的な考え方

将来の人口及び世帯数の減少により、市営住宅の需要は低下することが予想されますが、少子高齢化の進展や社会的弱者の多様化等の社会情勢の変化を踏まえ、民間賃貸住宅市場において最低居住水準の住居を確保できない低額所得者や、入居制限を受ける可能性がある高齢者や障害者、子育て世帯等の住宅困窮度の高い世帯などの、真に救済すべき世帯の推計を行い、それらを救済するセーフティネットとしての役割を重点的に担えるよう、住宅の確保を支援することで、市民生活の安定を図ります。

配置については、立地適正化計画によるコンパクトなまちづくりを進めていくことを踏まえ、市内各エリアにおける将来人口や特性を十分に勘案し、県営住宅も含めた公営住宅について、需要と供給のバランスが図れるよう、都心周辺部及び地域拠点の市営住宅は、適正な管理戸数を維持します。

その他の地区については、地域コミュニティが維持できるよう住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで管理戸数の縮減を行います。

また、島しょ部については、現在行っている集約や用途廃止、除却等を継続し、管理戸数の縮減を推進します。

ア 現状及び課題

※管理戸数は平成30年4月1日現在

永田第1住宅		永田第2住宅	
	【建築年】1993年 【管理戸数】16戸		【建築年】2002年 【管理戸数】8戸
永田第3住宅		高尾住宅	
	【建築年】2004年 【管理戸数】8戸 【概要】募集停止中		【建築年】1976年 【管理戸数】4戸
松本住宅		松山迫住宅	
	【建築年】1977年 【管理戸数】16戸 【概要】募集停止中		【建築年】1980年 【管理戸数】16戸 【概要】募集停止中

出津住宅		西出津住宅	
	【建築年】1989 年 【管理戸数】28 戸		【建築年】2002 年 【管理戸数】14 戸
丸尾住宅		神浦住宅	
	【建築年】2002 年 【管理戸数】14 戸		【建築年】1977 年 【管理戸数】16 戸 【概要】募集停止中
夏井住宅			
	【建築年】1993 年 【管理戸数】26 戸		

池島第 1 住宅		池島第 2 住宅	
	【建築年】1970 年 【管理戸数】24 戸 【概要】募集停止中		【建築年】1962 年 【管理戸数】68 戸 【概要】募集停止中
池島第 3 住宅		池島第 4 住宅	
	【建築年】1965 年 【管理戸数】203 戸 【概要】募集停止中		【建築年】1976 年 【管理戸数】22 戸 【概要】募集停止中

共通**【現状及び課題】**

(黒崎・出津・神浦エリア)

- 高尾住宅、松本住宅、神浦住宅、松山迫住宅は、老朽化が進み、大規模改修の時期を迎えています。
- 市民対話では、
「補修をしてなるべく長く住めるようにしてほしい。」
という意見が出されました。

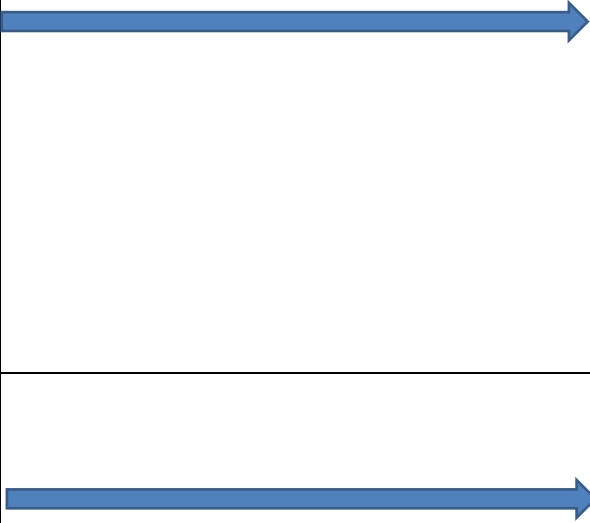

(池島エリア)

- 老朽化のため、新規の入居者の募集を停止しています。
- 建物の老朽化が著しく、耐震性が確保されているのは、池島第2住宅KA棟、池島第3住宅B1・B2・B3棟、池島第4住宅53B棟です。
- 耐震性が確保されている建物についても、修理が必要な個所が多数見受けられます。
- 市民対話では、
「集約には賛成。」
「新しくアパートを作っての集約が考えられないか。」
「危ない所は修理してほしい。」
「募集があれば、池島に戻りたい人もいる。」
「集約すると部屋が狭くなり不便になる。」
「集約での引っ越しは、年齢的、金銭的にも負担がある。」
「集約される建物は4階建てで、バリアフリーについても未整備では。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

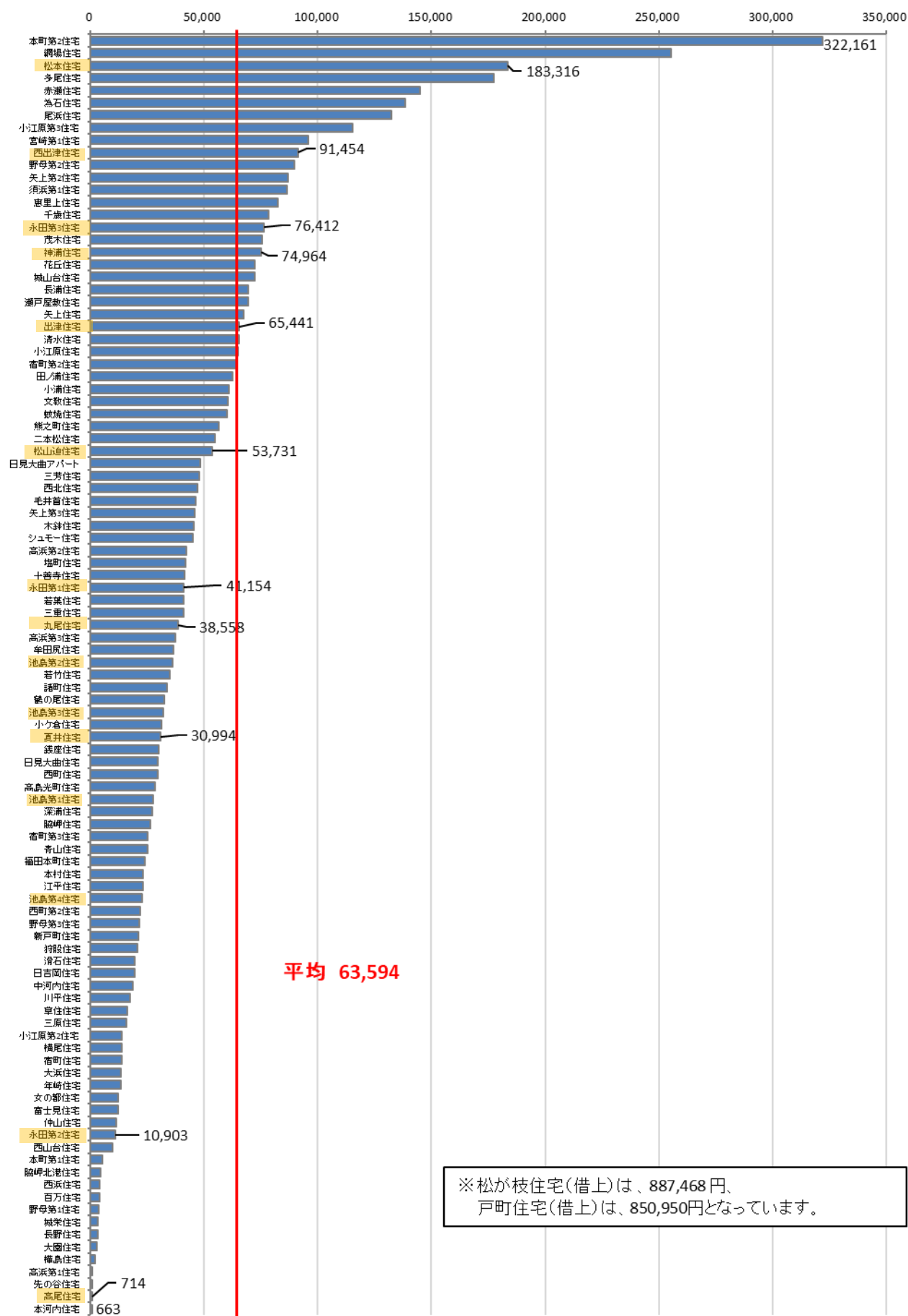
- 黒崎・出津・神浦エリアの市営住宅については、引き続き適正な維持管理に努めるとともに、今後の住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで、適正な管理戸数になるよう見直します。
入居者の点在を解消し、効率的な市営住宅の維持管理を進めていくこととしています。
- 池島エリアの市営住宅については、耐震性が確保されている住宅のうち、比較的状态のよい建物（第2住宅KA棟、第3住宅B2棟、B3棟、第4住宅53B棟）への集約化を図りながら、適正に管理します。なお、新たに池島の市営住宅への入居希望があった場合は、第4住宅53B棟での対応を検討します。
また、集約する場合は移転先となる住戸の整備を行いたいと考えています。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
永田第1住宅				今後の住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで、適正な管理戸数になるように見直す
永田第2住宅				
永田第3住宅				
高尾住宅				
松本住宅				
松山迫住宅				
出津住宅				
西出津住宅				
丸尾住宅				
神浦住宅				
夏井住宅				
池島第1住宅				耐震性が確保されている比較的状态のよい建物への集約化を図りながら、適正に管理する
池島第2住宅				
池島第3住宅				
池島第4住宅				

管理戸数1戸当たりの年間コスト (H29 年度実績)


(単位: 円)



③農林業振興施設（外海ふれあい農産加工所）

農林業振興施設の 施設配置の 基本的な考え方	<p>農業の担い手不足や従事者の高齢化が進んでおり、2040 年においては、更に人口減少・少子高齢化が進むことで、生産力の低下が懸念されます。</p> <p>意欲ある農林業者の確保を行うため、後継者や新たな担い手の育成、及び意欲を持って取り組む農林業者の支援を進めながら、農林業者が安全・安心で新鮮な農林産物を安定的に供給し、経営が安定するよう、施設園芸やブランド化品目の生産性と収益性向上に向けた支援に努めます。</p> <p>高齢者が多い農業者を支援するためには、農作業のある程度の経験や技術を持った人材が存在し、農業生産活動に関わることが大切であり、農作業の体験や技術を習得ができる人材が必要です。</p> <p>また、就農者、農業後継者の減少により農地の荒廃が進行したため、遊休農地の有効活用も図ります。</p>
------------------------------	--

ア 現状及び課題

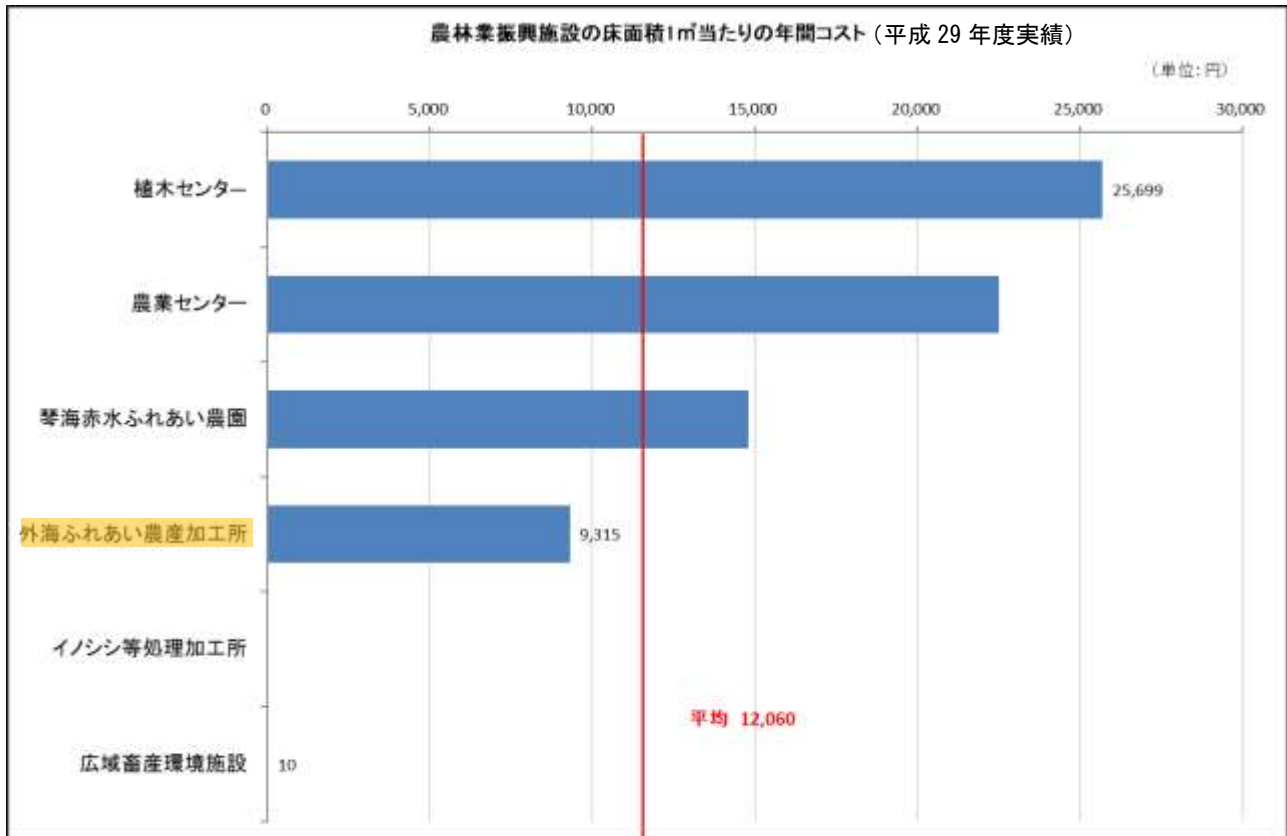
外海ふれあい農産加工所	
	<p>【建築年】2003 年</p> <p>【開館時間】9：00～17：00</p> <p>【休館日】火曜日、年末年始</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域農産物を活用した高付加価値の加工品生産を行うと共に、手作り加工技術の伝承を行うための施設です。 味噌などの加工品や菓子類の生産を行っています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現在の運営体制は、人件費が経営を圧迫しており、生産体制を整えるための雇用を増やすことも困難な状況です。 ● 早朝勤務の影響などの理由で、新たな担い手が確保できない状況です。高齢になった従業員の後継者育成が急務となっています。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

<p>外海ふれあい農産加工所については、池島炭鉱の閉山に伴う地域振興プロジェクト事業により設置された施設であり、郷土食文化及び農産加工技術の伝承や新商品の開発、加工体験の受入れなど、農業・地域振興の拠点となっています。</p> <p>引き続き施設は適正に管理しながら、今後、地域が主体となった施設運営により、さらなる農業振興・地域振興につながるよう、運営のあり方については継続的に検討していきます。</p>

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
外海ふれあい農産加工所				現在の施設を適正に管理し、運営のあり方については継続的に検討する



(3) 公用施設

①学校給食施設（神浦・黒崎学校給食共同調理場、池島学校給食共同調理場）

学校給食施設の 施設配置の 基本的な考え方

将来にわたって安全で安心なおいしい給食を、安定的に提供できるよう新たに学校給食センターを建設し、バリエーションに富んだ献立の提供、代替食等アレルギー対応の充実、温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たい状態で提供する適温給食をすべての児童生徒に提供することを目指し、学校給食の充実を図ります。

長崎市の学校給食は、小学校において直営・自校方式で始まり、中学校給食は小学校との親子方式、保温食缶配送方式等で実施してきました。

また、学校給食の提供についての効率化を図るため、公設民営による民間委託を進めてきました。

調理器具の設置の有無により献立内容に学校間の違いがあること、現行の給食室に食物アレルギーへの対応が可能な専用室を設けることが困難であること、また、ドライシステムではなく、老朽化に伴う改築や整備の更新が必要となっています。

そこで、アレルギー専用室を整備することにより食物アレルギー対応の充実が図れること、学校間で献立内容の違いをなくし、適切な衛生管理が図れることなどから、学校給食センターを建設することにより、学校給食の充実を図ります。

離島を除く既存の学校給食施設を集約化し、あわせて民間委託による運営を行うことで、今後の経費削減など、業務の効率化を図ります。

ア 現状及び課題

神浦・黒崎学校給食共同調理場



【建築年】1969 年

【延床面積】222 m²

【概要】

- 外海地区の小学校・中学校の給食を作っています。

【現状及び課題】

- 神浦小学校、外海黒崎小学校、黒崎中学校の学校給食を作っており、業務委託で運営しています。

池島学校給食共同調理場



【建築年】1962 年

【延床面積】292 m²

【概要】

- 校舎内にあり、池島小・中学校の給食を作っていましたが、現在稼働していません。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

神浦・黒崎学校給食共同調理場については、当面、現在の施設を維持していきますが、将来的には市内3か所に学校給食センターを建設し、配送時間や幹線道路へのアクセスの利便性を勘案したうえで、既存の学校給食施設を集約化し、学校給食の充実を図ります。

池島学校給食共同調理場については、学校の適正化に併せ、今後のあり方については児童・生徒数等の推移をみて検討します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
神浦・黒崎学校給食共同調理場				現在の施設を管理し、給食センターの設置に併せて、集約化する
池島学校給食共同調理場				今後のあり方については、児童・生徒数等の推移をみて検討する

②庁舎等（外海地域センター、黒崎事務所、池島事務所）

庁舎等の
施設配置の
基本的な考え方

人口減少や少子高齢化が進み、地域を支える力が弱まりつつあるなか、地域をより暮らしやすい場所とするためには、本来、地域が持つ力を引き出して、行政と地域コミュニティが連携しながら地域の課題を解決していくことが必要だと考えています。

また、市民にとって身近な行政サービスは、市内一円、身近な場所で均一に提供しつつも、非効率としないようにします。

平成 29 年 10 月から、市の組織のあり方を見直す取組みとして、行政サテライト機能の再編成を行い、地域センター及び総合事務所を設置しました。

2040 年には、人口が更に減少していくとともに、集約連携型の都市構造となることや、マイナンバー制度の進展やその他手続きの電子化や簡素化が見込まれるため、次の考え方により配置を見直していきます。

(1) 身近な手続き（各種証明書の交付、届け出や申請）や相談ができる機能

この機能については、都市計画マスタープランの生活地区、地域拠点及び都心部に 1 か所ずつ配置します。

生活地区では既存施設のなかで、当該地区内の人口のまとまりや交通の状況から、利便が良い場所に配置することとします。

また、現在、身近な手続きができるように配置している事務所及び地区事務所は、今後の人口及び取扱件数をもとに配置を見直していきます。

(2) 地域のまちづくりを支援する機能（地域からの相談、要望等への対応、各種団体のネットワーク化、情報発信）

この機能については、都市計画マスタープランの生活地区、地域拠点及び都心部に 1 か所ずつ配置します。


地域の情報が集まり、また、地域で活動する団体と連携しやすい状態をつくるために、コミュニティ活動施設との複合化や、商業施設の中に配置するなど、所管区域の住民が集まりやすい場所に配置することを検討しますが、地域の人口、地域コミュニティの状況、住民の交通の利便や移動の距離、職員配置の効率性などを考慮し、配置を見直していきます。


(3) 現場に出て事業等を実施する職員の拠点となる機能

この機能については、地域の課題を迅速に解決するために、人口や地域のまとまり、職員の移動に係る交通の利便や移動の距離、職員配置の効率性などを考慮し、中央・南部・北部・東部の既存の施設の中で、市民生活に密着した土木事業や保健事業などの職員の移動の効率が良い場所 4 か所に配置します。

市全体にわたる計画の作成や事業の実施、事業者の営業に係る許認可などを行う本庁の機能は、市内全域の住民の利便を考慮し、都市計画マスタープランの都心部に 1 か所配置します。

ア 現状及び課題

外海地域センター	
	<p>【建築年】1993 年</p> <p>【開庁時間】8 : 45～17 : 30</p> <p>【閉庁日】土・日曜日、祝日、年末年始</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な手続や相談ができる拠点として、市税収納、各種証明書の発行、福祉手続きのほか、外海地区のまちづくり活動の支援を行っています。 ● 外海ふるさと交流センターの1階部分に設置されています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年10月以降、2階の執務室が空きスペースとなっています。 ● 市民対話では、2階の空きスペースについて、 「宿泊室を増設しては。」 「元々住民のための施設だったので、地域に開放してもらえないか。」 「グリーンツーリズムの一環で、滞在拠点・情報発信拠点として活用し、魅力に触れてもらう。」 という意見が出されました。 	

外海地域センター黒崎事務所（2022年1月に黒崎地区公民館内へ移転済）	
	<p>【建築年】1968 年</p> <p>【開庁時間】8 : 45～17 : 30</p> <p>【閉庁日】土・日曜日、祝日、年末年始</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な手続ができる拠点として、市税収納、各種証明書の発行、福祉手続きなどを行っています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化が進み、2階部分のほとんどは倉庫として使用しており、1階の和室等は長い期間利用されていません。 ● 避難所に指定されていますが、立地や設備の面から黒崎地区の多くの方は、黒崎地区公民館を利用されています。 ● 市民対話では、 「1階の部屋を避難場所としてあるが、道路から入りやすく広い、2階の畳部屋を、避難所として活用できないか。」 という意見が出されました。 	

外海地域センター池島事務所（2023 年 5 月に池島開発総合センター内へ移転済）



【建築年】1961 年

【開庁時間】8 : 00～16 : 45

【閉庁日】土・日曜日、祝日、年末年始

【概要】

- 身近な手続きができる拠点として、市税収納、各種証明書の発行、福祉手続きなどを行っています。
- 簡易郵便局が隣接しています。

【現状及び課題】

- 地理・地形的に池島の中心に位置しています。
- 建物の老朽化が著しく、耐震性が確保されていません。
- 市民対話では、
「島内に配置されるのであれば安心できる。」
「今の場所は池島の中心であり、最適だと思う。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

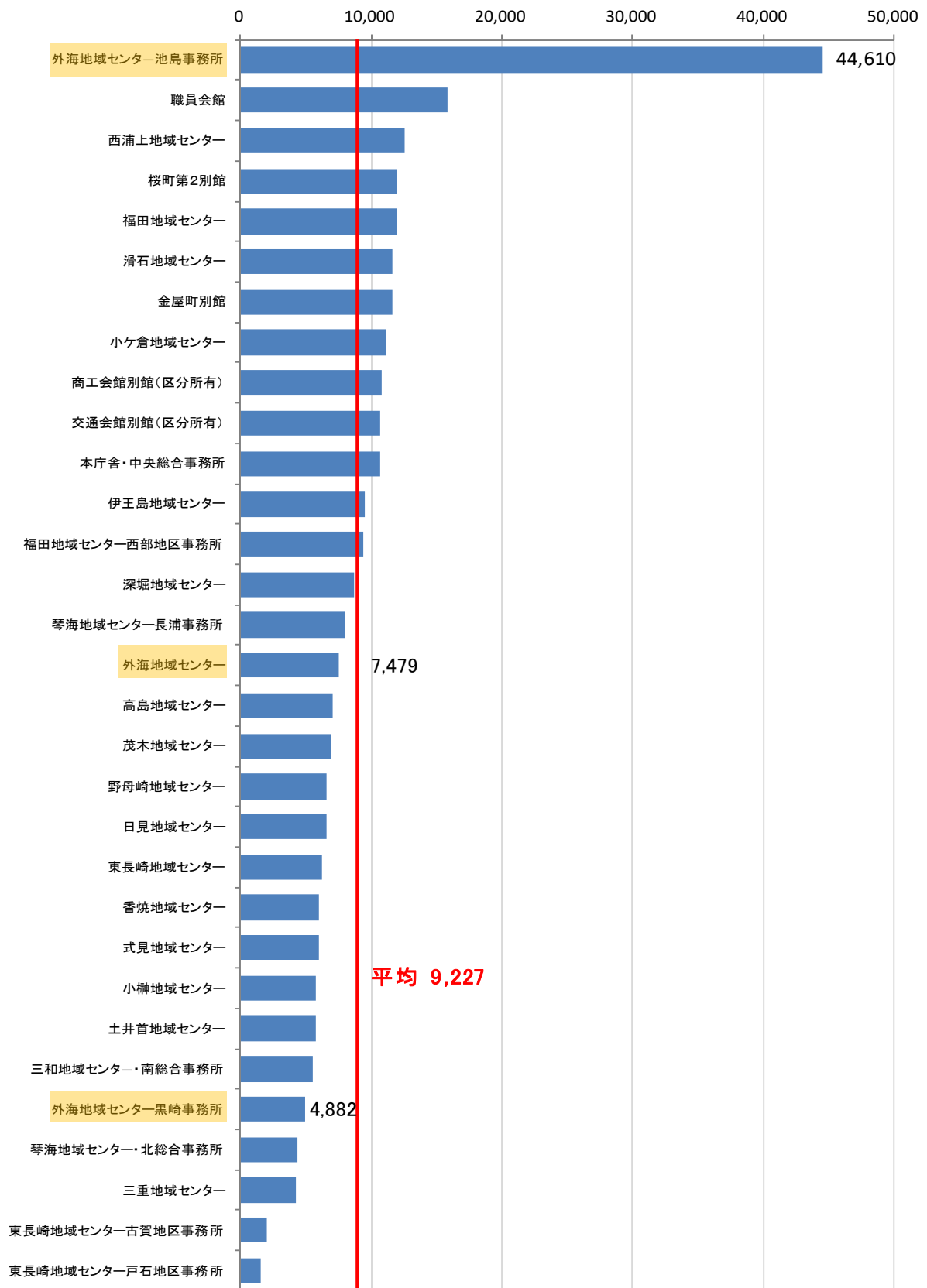
- 外海地域センターについては、立地に課題があります。また、近隣の外海公民館は老朽化が進んでいることから、住民の利便性向上などのため、2施設を複合化します。
- また、黒崎事務所及び池島事務所については、これから人口が減少するとともに、手続きの電子化や簡素化が進むことが見込まれるため、将来的には、人口動向などによっては適切な見直しを図っていくことも検討しながら、現在の施設の適正な管理に努めます。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
外海地域センター	→			老朽化した外海公民館との複合化を行う
外海地域センター黒崎事務所	→			人口動向などによっては適切な見直しを図っていくことも検討しながら、現在の施設を適正に管理する
外海地域センター池島事務所	→			池島開発総合センター又は池島中央会館への機能移転を検討する

本庁舎・地域センター等の床面積1㎡当たりの年間コスト (H29 年度実績)

(単位:円)



※庁舎等で借上げしている施設については、借上料が発生し、他の施設との比較に適さないため、グラフから除外しています。

③消防施設（北消防署神浦出張所、北消防署池島派出所）

消防施設の
施設配置の
基本的な考え方

人口減少が進むなか、消防体制の見直しを図りながら、効率的な適正配置に努め、将来にわたり市民が安全安心に暮らせる行政サービスの提供を行っていきます。

このためには、火災や自然災害等が発生した場合に、各地域での活動が効果的に行える活動拠点が必要となります。

消防施設のうち、常備消防庁舎については、人口分布、主要幹線道路の整備に伴う交通事情の改善や市街地の整備状況等を勘案しながら、市全域において火災・救急需要に適正な対応ができる位置に配置します。

中心市街地においては、木造住宅が密集する地域などに消防隊が迅速に到達できるよう、有効な場所へ拠点となる施設を配置します。その他の地域においては、人口分布や道路の状況を勘案して、当該地域の拠点となる場所に配置します。

また、離島地区については、当分の間は現行体制を維持することとしますが、将来的には消防艇など（救急の24時間対応を含む）の整備を検討し、並行して地域住民や各機関と連携を強化しながら、防火防災体制の充実に取り組みます。

配置数については、市全域において行政サービスを低下させることのないよう施設の移転及び統廃合を行い、重複している活動エリアの解消と、カバーが十分でなかった地域の充実を図ります。

消防団格納庫については、地域の実情に応じて消防団員の活動拠点となる位置に配置します。

ア 現状及び課題

北消防署神浦出張所



【建築年】2014 年

【開庁時間】24 時間

【休庁日】なし

【概要】

- 消防ポンプ自動車と高規格救急自動車を配備し、外海地域において、消防、救急、救助活動などを行うための拠点となっています。

【現状及び課題】

- 効率的な消防活動を行うため、現在地に設置されています。

北消防署池島派出所



【建築年】1974 年

【開庁時間】24 時間

【休日】なし

【概要】

- 消防ポンプ自動車を配備し、池島地域において、消防、救急、救助活動などを行うための拠点となっています。

【現状及び課題】

- 施設の老朽化が進んでいます。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

効率的な消防活動を行うための拠点については、道路状況や隣接する消防施設の位置などを考慮したうえで、全市的な観点で計画的に配置を行います。

- 北消防署神浦出張所については、現在の施設の適正管理に努めます。
- 北消防署池島派出所については、当分の間は現行体制を維持することとしますが、将来的には、消防艇など（救急の24時間対応を含む）の整備を検討し、並行して地域住民や各機関との連携強化を図りながら、効率的な消防活動を行うため、隣接する消防施設の位置などを考慮したうえで、全市的な観点で計画的に配置を行います。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
北消防署神浦出張所				適正管理を行う
北消防署池島派出所				将来、消防艇などの整備を含め、検討するが、当分の間は、現在の施設を適正に管理する




④職員宿舎（池島教職員住宅第1号、外海地域センター池島事務所係長宿舎、池島診療所長宿舎（借上））


職員住宅の 施設配置の 基本的な考え方	<p>行政サービスの円滑な遂行を図るため、長崎市内には危機管理上の観点及び人材確保の観点から、また、勤務地が市外である職員に対しては、職務上居住させる必要性から、職員住宅を配置します。</p> <p>ただし、職員住宅機能の確保においては、既存施設の利用に限らず、民間施設の借り上げや、他の市有財産の活用も図ります。</p>
---------------------------	---

ア 現状及び課題

池島教職員住宅第1号／外海地域センター池島事務所係長宿舎

	<p>【建築年】1987年</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 池島教職員住宅第1号 管理戸数は11戸です。 ● 外海地域センター池島事務所係長宿舎（教職員住宅を転用）1戸
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 離島地区では交通手段が限られており、児童生徒に円滑な教育活動を提供するため必要があるため配置しています。 ● 離島地区において、危機管理上の観点から、緊急時の対応のための施設が必要です。 	

池島診療所長宿舎（借上）

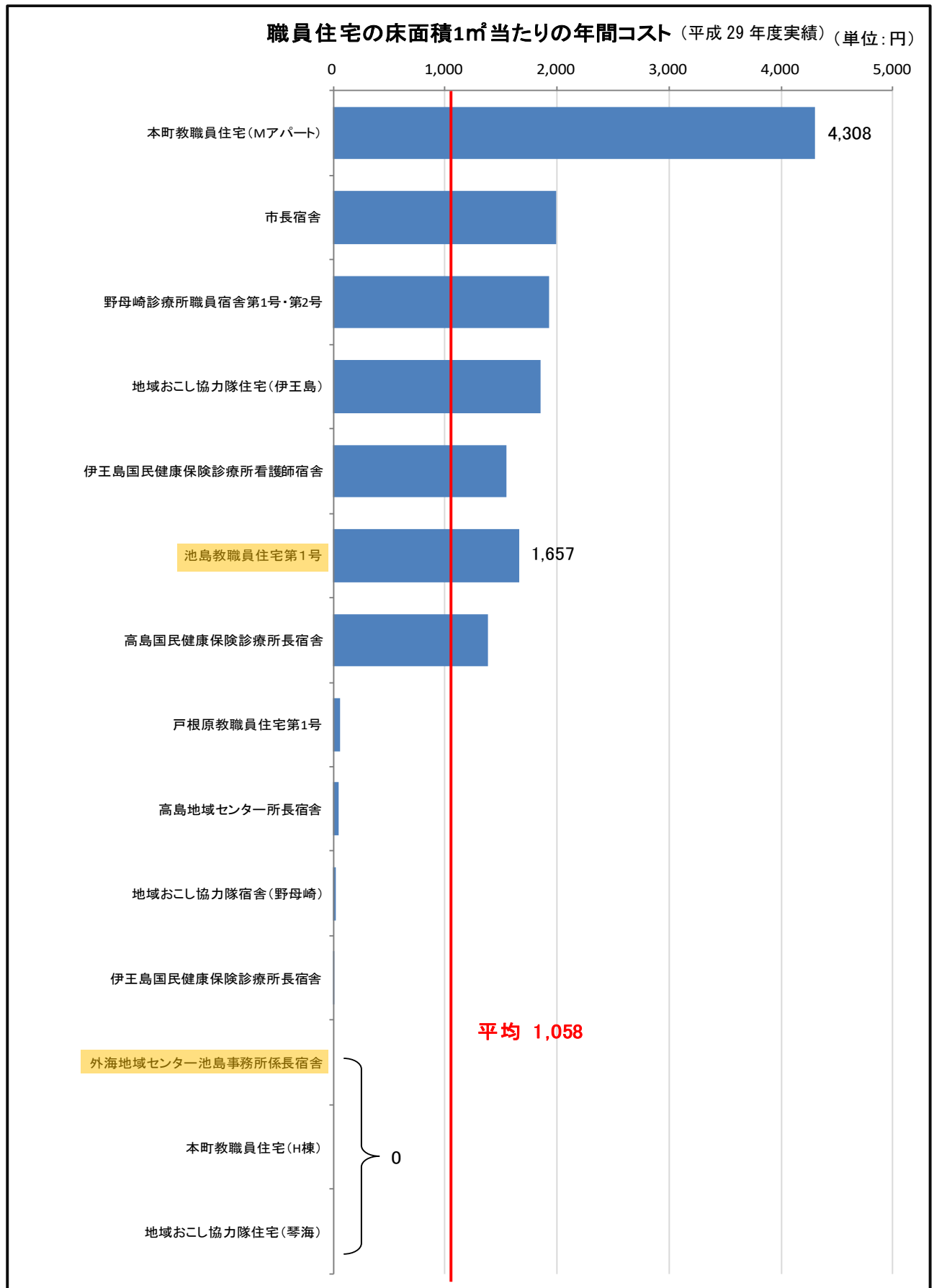
	<p>【建築年】1962年</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医師の人材確保のため配置しています。
<p>【現状及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物の耐震性は確保されていますが、建築後50年を超えており老朽化が進んでいます。 	

イ 施設のあり方や見直しの方向性

<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員宿舎については、離島地区では交通手段が限られており、児童生徒に円滑な教育活動を提供するため、小中学校が存続する限り、小中学校の教員の配置に対応して宿舎を確保します。池島においては、現在の施設を引き続き使用し、適切な維持管理を行っています。 ● 診療所宿舎については、人材確保の観点から、現在の施設を引き続き使用します。 ● 係長宿舎については、危機管理上の観点から、現在の施設を引き続き使用し、適切な維持管理を行います。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
池島教職員住宅第1号				適正管理を行う
外海地域センター 池島事務所係長宿舍				
池島診療所長宿舍（借上）				引き続き借上住宅で対応する



※池島診療所長宿舎（借上）を含めた職員住宅（借上）については、借上施設であることから（借上料が発生するため）他の施設との比較に適さないため、グラフから除外しています。

(4) 公園施設

①公園施設（総合公園、地区公園、近隣公園、街区公園）

公園施設の 施設配置の 基本的な考え方

公園については、防災・避難等災害に対応できる機能を確保し、バリアフリー化など機能の向上や、複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出、地域イベント等の開催が可能な広場等の整備による地域コミュニティの空間の創出、スポーツ施設等の利用環境の充実、健康寿命を延ばす健康づくりのための機能の導入等、多様なニーズに対応した公園づくりを推進します。

また、市内における都市公園の市民1人当たりの標準の敷地面積及び、市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの標準の敷地面積はそれぞれ次のとおりとし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し配置の均衡を図ります。

（1人当たりの敷地面積）

- ・本市内の都市公園の市民1人当たりの敷地面積の標準 10 m²以上
- ・市街地の都市公園の当該市街地の市民1人当たりの敷地面積の標準 5 m²以上

（公園種別と標準面積）

公園種別	標準面積
街区公園	0.1ha (1,000 m ²)
近隣公園	2.0ha (20,000 m ²)
地区公園	4.0ha (40,000 m ²)
総合公園	利用目的に応じて適宜
運動公園	利用目的に応じて適宜

（1）総合公園

都市基幹公園として、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供するため必要な施設です。また、地区公園の配置を補完する役割も有しています。

（2）運動公園

都市基幹公園として、都市住民全般の主として運動の用に供するため必要な施設です。スポーツに特化したサービスの拠点として必要です。

（3）地区公園

住区基幹公園として、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。住民のレクリエーション等の拠点として配置します。

（4）近隣公園

住区基幹公園として、主として近隣に居住する者の利用に供するため必要な施設です。日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点として配置します。

（5）街区公園（遊園を含む）

住区基幹公園として、主として街区内に居住する者の利用に供するため必要な施設です。

将来人口の推移及び立地適正化計画における居住誘導区域を踏まえながら、整備面積・配置・機能が過大である地域においては廃止し、不足している地域においては、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。

ア 現状及び課題

そとめ神浦川河川公園【総合公園】

神浦川と周辺の豊かな自然を満喫できる公園として利用されています。

外海総合公園【地区公園】

スポーツの拠点として利用されています。

外海総合公園運動場

【敷地面積】 8,294 m² 【年間利用者数】 2,361 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

大野浜海浜公園【近隣公園】(2023 年 3 月_用途廃止済)



【建築年】 1995 年

【概要】

- 近隣に居住する住民の日常における憩いの場として設置されています。
- 管理棟は管理人室、トイレ及びシャワー室より構成されています。
- 公園からは角力灘が一望でき、水平線に沈む夕日を楽しむことができます。

【現状及び課題】

- 管理人室は長く使用されず物置となっており、有料シャワーの利用は夏場でも利用が少ない状況です。
- 近隣公園として設置されていますが、地域住民の利用は殆どみられません。
- 道路及び民家から離れた場所に設置されているため、防犯上の安全性が懸念されています。

大城公園、外海運動公園【近隣公園】

近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等、防災の拠点として利用されています

外海運動公園運動場

【敷地面積】 4,200 m² 【年間利用者数】 240 人 ※利用者数は平成 29 年度実績

【街区公園（2 か所）】

街区内に居住する住民の方に利用されています。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

総合公園については、市内に 10 か所配置されており、それぞれの公園において地形や特性を活かし、各公園で機能分担を図りながら住民の総合的な利用に供していることから、黒崎・出津・神浦エリアにおいても現状の 1 か所を維持します。




地区公園については、住民のレクリエーション等の拠点として配置する必要があるため、現状の外海総合公園の 1 か所を維持します。

近隣公園は、黒崎・出津・神浦エリアにおいて 3 か所設置されていますが、その配置や面積の状況からは過分に配置されており、特に大野浜海浜公園については利用頻度も低いため、今後は老朽化に伴う改修は行わず、廃止を検討します。

その他の 2 か所については、近隣に居住する住民の日常における憩いの場や避難場所等防災の拠点として引き続き維持しますが、外海運動公園運動場については、利用者数が少ないため運動場としての機能の廃止を検討します。

街区公園については、将来人口の推移を踏まえながら、整備面積・配置・機能が過大である地域においては廃止し、不足している地域においては、統廃合や新設により適切な公園整備を推進します。

ウ ロードマップ

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030 以降～	
そとめ神浦川河川公園				適正管理を行う
外海総合公園（運動場を含む）				
大野浜海浜公園				廃止を検討する
大城公園				適正管理を行う
外海運動公園				公園としては存続し、適正管理を行うが、運動場としての機能については廃止を検討する
街区公園（2 か所）				整備面積・配置・機能の状況を見ながら、統廃合や新設を行う

(5) その他の施設

①遊休資産（旧外海町庁舎、旧神浦中学校、旧黒崎中学校、旧まちづくり記念館、旧出津地区公民館）

遊休資産の 活用の考え方	行政目的を終えた遊休資産については、他の行政サービスでの活用を図る他、積極的な売却や貸付けに取り組むなど、資産の有効活用に努めます。
-----------------	--

ア 現状及び課題

旧外海町庁舎



【建築年】 1982 年

【延床面積】 2,518 m²

【敷地面積】 3,648 m²

【耐震性】 あり

【概要】

- 旧外海町の役場庁舎であり、現在、敷地及び建物の一部を民間事業者に貸し付けています。

【現状及び課題】

- 建物本体部分は老朽化が著しく、他の用途で活用する場合、大規模な改修が必要です。
- 遊休資産として有効活用を行う必要があります。

旧神浦中学校



【建築年】 1967 年

【延床面積】 2,515 m²

【敷地面積】 7,335 m²

【耐震性】 あり

【概要】

- 2015 年 3 月、統廃合により閉校し、体育館とグラウンドは地元自治会に貸し出されています。

【現状及び課題】

- 校舎は耐震性がありますが、利用されていません。
- 遊休資産として有効活用を行う必要があります。
- 市民対話では、
「光ファイバー網を整備し、企業誘致して欲しい。」
という意見が出されました

旧黒崎中学校



【建築年】1970 年

【延床面積】3,607 m²

【敷地面積】13,720 m²

【耐震性】校舎（なし）、体育館（あり）

【概要】

- 旧黒崎中学校は、2015 年度に神浦中学校を統合し、2019 年度からは「外海中学校」へと校名を改称しています。また、旧出津小学校跡に建設した新校舎へ移転しています。

【現状及び課題】

- 学校としての役割を終えたあとは、立地面から防犯上の問題が懸念されます。
- 市民対話では、
「老人福祉施設等への貸出し、貸倉庫として活用してはどうか。」
「ゆうこう栽培地、公文書館の設置はできないのか。」
という意見が出されました。
- 学校移転後は遊休資産として有効活用を行う必要があります。

旧まちづくり記念館



【建築年】1989 年

【延床面積】93 m²

【耐震性】あり

【概要】

- 外海地区におけるガイドステーションとして利用されていました。

【現状及び課題】

- 比較的新しい建物ですが、バリアフリーになっていません。
- 市民対話では
「地元の雇用のために、工芸品などを販売する場所として活用できないか。」
という意見が出されました。

旧出津地区公民館（2022 年 2 月_建物解体済）



【建築年】1970 年

【敷地面積】13,720 m²【延床面積】523 m²

【耐震性】なし

【概要】

- 平成 30 年 9 月に公民館を旧子ども博物館へ移転しました。

【現状及び課題】

- 建物の耐震性もなく、老朽化が進んでいます。

共通






【現状及び課題】

- 市民対話では、
「世界遺産関係で観光客が増えると思うので、大型バスが駐車できる資料館が作れないか。」
「民間への売却、貸付の推進を図っては。」
「このほかにも、利用されず、そのままになっている木造の建物は、早期に解体して欲しい。」
という意見が出されました。

イ 施設のあり方や見直しの方向性

- 旧外海町庁舎については、売却や貸付など有効な活用方法の検討を行います。
- 旧神浦中学校については、校舎等の耐震性が確保されているため、校舎を含め売却や貸付など、有効な活用方法の検討を行います。
- 新校舎移転後の旧黒崎中学校については、売却や貸付など有効な活用方法の検討を行います。
- 旧まちづくり記念館については、売却や貸付など有効な活用方法の検討を行います。
- 旧出津地区公民館については、解体を含めて、売却や貸付など有効な活用方法の検討を行います。









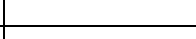


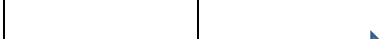
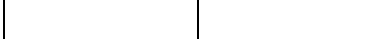
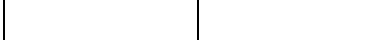
ウ ロードマップ












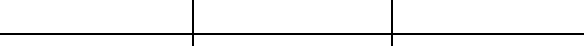
施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
旧外海町庁舎				売却・貸付を含め、活用方法を検討する
旧神浦中学校				売却・貸付を含め、有効活用を検討する
旧黒崎中学校				売却・貸付も含め、活用方法を検討する
旧まちづくり記念館				売却・貸付を含め、有効活用を検討する
旧出津地区公民館				解体も含めて売却・貸付など、有効活用を検討する

6 地区計画のロードマップ（再掲）

地区計画を着実に実施していくため、施設ごとの将来のあり方について、今後の再配置の推進工程（ロードマップ）を示したものです。

再配置の実施時期については、建物の状況（建築年、安全性など）や施設の稼働率、提供している行政サービス、さらには施設が設置された経緯や市の施策との整合性などを考慮し、区分します。

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
西出津ゲートボール場				ゲートボール専用施設としては廃止し、多目的に利用できるよう検討する
市設池島総合食料品小売センター				機能移転や代替措置を講じ、たうえで廃止し解体する
老人福祉センター開陽山荘				近隣の出津地区ふれあいセンターへ機能を集約したうえで廃止する
池島開発総合センター				適正管理を行い、他の機能を集約する
池島地区公民館				図書機能を島内の他の施設に移転したうえで廃止する
池島港浴場				東浴場と統合に向けた課題を整理する
池島東浴場				用途廃止し港浴場に統合する 統合までの間、冬季の営業時間短縮を検討する
大野浜海浜公園				廃止を検討する
旧外海町庁舎 旧黒崎中学校				売却・貸付を含め、活用方法を検討する
旧出津地区公民館				解体も含めて売却・貸付など、有効活用を検討する
旧神浦中学校 旧まちづくり記念館				売却・貸付を含め、有効活用を検討する
黒崎海岸有料シャワー施設				大規模改修時に廃止する 公衆トイレ機能については、その時点の利用状況を踏まえ、地域と協議する
外海歴史民俗資料館				将来的な施設のあり方を検討する
老人憩の家池島荘				ボイラーの更新時期を目途に入浴機能を廃止する 高齢者専用施設としては廃止し施設のあり方を検討する

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
神浦・黒崎学校給食共同調理場				現在の施設を管理し、給食センターの設置に併せて、集約化する
池島学校給食共同調理場				今後のあり方については、児童・生徒数等の推移をみて検討する
外海地域センター池島事務所				池島開発総合センター又は池島中央会館への機能移転を検討する
外海運動公園				公園としては存続し、適正管理を行うが、運動場としての機能については廃止を検討する
外海ふるさと交流センター				指定管理終了時期（令和8年度末）に合わせて宿泊機能を廃止に向けて検討する
池島中央会館				施設の適正な管理に努め、効率的な運営のあり方は継続的に検討する
にじっこクラブ				現在の施設を適正に管理し、将来的には他の公共施設の余剰スペースの活用等を検討する
永田第1住宅 永田第2住宅 永田第3住宅 高尾住宅 松本住宅 松山迫住宅 出津住宅 西出津住宅 丸尾住宅 神浦住宅 夏井住宅				今後の住宅需要や民間の動向を踏まえたうえで、適正な管理戸数になるように見直す
池島第1住宅 池島第2住宅 池島第3住宅 池島第4住宅				耐震性が確保されている比較的状态のよい建物への集約化を図りながら、適正に管理する
外海ふれあい農産加工所				現在の施設を適正に管理し、運営のあり方については継続的に検討する
外海地域センター				老朽化した外海公民館との複合化を行う
外海地域センター黒崎事務所				人口動向などによっては適切な見直しを図っていくことも検討しながら、現在の施設を適正に管理する

施設名称	前期	後期	次期計画	備考
	～2022	2023～2029	2030以降～	
街区公園（2か所）				整備面積・配置・機能の状況を見ながら、統廃合や新設を行う
北消防署池島派出所				将来、消防艇などの整備を含め、検討するが、当分の間は、現在の施設を適正に管理する
道の駅夕陽が丘そとめ				適正管理を行う
遠藤周作文学館				
外海公民館				外海地域センターと複合化を行う
黒崎地区公民館 出津地区ふれあいセンター				適正管理を行う
外海黒崎小学校 神浦小学校 外海中学校				
北消防署神浦出張所				
池島教職員住宅第1号 外海地域センター池島事務所係長宿舎				
そとめ神浦川河川公園 外海総合公園（運動場を含む） 大城公園				
池島小学校 池島中学校				今後のあり方については、将来的に児童・生徒数の動向をみて検討する
池島診療所				人材確保に努めながら、施設については適正管理を行う
神浦港ターミナル 池島港船客待合所				航路が存続する限り現在の施設を適正に管理する
池島診療所長宿舎（借上）				引き続き借上住宅で対応する
ド・ロ神父記念館				重要文化財として適正に管理する

参考 市民対話の実施

人口が減少し少子高齢化が進んでも、長崎が暮らしやすいまちであり続けられるよう、公共施設のあり方・使い方について、地域住民と行政が一緒に考える場として、「市民対話」を実施しました。

将来の長崎市の姿を見据えた行政サービスのあり方と、それを提供する拠点となる公共施設のあり方について、市の基本的な考え方をお話するとともに、地域に必要な機能（行政サービス）をこれからも維持しながら、地域の賑わいや活力あるまちづくりにつながる施設の集約化、多世代交流の促進を生み出す複合化・多機能化など、公共施設の見直しについてさまざまな意見をいただきました。

黒崎・出津・神浦エリアでの市民対話の開催状況は、以下のとおりです。

<第1回>

開催日	平成29年11月23日（木）13：00～15：00
会場	外海ふるさと交流センター
内容	● 公共施設の現状や見直しの必要性について ● 黒崎・出津・神浦エリアの公共施設の利用状況の確認
参加者数	19人

<第2回>

開催日	平成29年12月17日（日）13：00～15：00
会場	黒崎地区公民館
内容	● 公共施設の配置の考え方と見直し案について ● 見直し案に対する意見交換
参加者数	22人

<第3回>

開催日	平成30年1月27日（土）13：00～15：00
会場	外海ふるさと交流センター
内容	● 第2回までの意見に対する検討結果について ● 意見交換
参加者数	24人

<第4回>

開催日	平成30年2月18日（日）13：00～15：00
会場	黒崎地区公民館
内容	● 第3回までの意見に対する検討結果について ● 意見交換 ● 対話のまとめ
参加者数	23人

◆黒崎・出津・神浦エリアの市民対話の詳細については長崎市のホームページでご覧いただけます。

「公共施設の将来のあり方を考える市民対話」

(URL：<http://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/792000/792109/p031110.html>)

池島エリアでの市民対話の開催状況は、以下のとおりです。

<第1回>

開催日	平成29年11月22日（水）17：00～18：30
会場	池島開発総合センター
内容	● 公共施設の現状や見直しの必要性について ● 池島エリアの公共施設の利用状況の確認
参加者数	25人

<第2回>

開催日	平成29年12月18日（月）17：00～18：30
会場	池島開発総合センター
内容	● 公共施設の配置の考え方と見直し案について ● 見直し案に対する意見交換
参加者数	22人

<第3回>

開催日	平成30年1月26日（金）17：00～18：30
会場	池島開発総合センター
内容	● 第2回までの意見に対する検討結果について ● 意見交換 ● 対話のまとめ
参加者数	20人

◆池島エリアの市民対話の詳細については、長崎市のホームページでご覧いただけます。

「外海地区（池島エリア）の公共施設の将来のあり方を考える市民対話」

（URL：<http://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/792000/792109/p031111.html>）

長崎市公共施設マネジメント
外海地区計画

令和3年(2021 年)5月
令和7年(2025 年)12月改訂
長崎市

【問い合わせ先】

長崎市財務部資産経営課

電話:095-829-1127

FAX:095-829-1248

Email:shisankeiei@city.nagasaki.lg.jp